

Defeating The Powers of Darkness

人生の試練の日々において...

暗黒の勢力を打破する



とりなしの祈りの実際的ガイド

“彼らは小羊の血によって、打ち勝つ”

アル&コレット・マーティン
AL&COLLETTE MARTIN

Defeating The Powers of Darkness

暗黒の勢力を打破する

アル&コレット・マーティン

目次

Contents

| | |
|----------------------|----|
| 我々の重荷 | 3 |
| 悪魔の影響力を認識する | 6 |
| あなたは悪魔に心の扉を開いていませんか？ | 14 |
| 告白と悔い改め | 33 |
| イエスの御名によって | 40 |
| 私たちの戦いの武器 | 48 |
| 祈りとクリスチャン兵士 | 66 |
| 付 録 | 74 |

我々の重荷

クリスチャンが日毎に経験する悪霊との戦い



私たちはアメリカ中を回り、人生のあらゆる方面における霊的戦いについての講演をしています。各集会が終わった後、どれだけ多くの方がその場に残り、目に涙を浮かべながら自分自身の体験を私たちに語ってくれるかは信じがたい程です。

私たちが家にいるときは、電話が一日に20～40回もかかってきます。これらの多くは悩みを訴えている電話です。未信者との結婚をして激しい戦いを経験している人、性的罪の奴隷になっている青年男女、10代の反抗的子供を持つ親、自殺をしたいとの衝動に駆られるクリスチャン、麻薬や性的乱交の中から抜け出そうとしている若者など、枚挙にいとまがありません。

現代心理学者らはこのような人々を助けていると主張しますが、彼らは人間の策を通してそれをしようとしているのです。彼らは、神が聖書の中で与えておられる道具を理解していませんし、用いようともしません。世間一般、またクリスチャンの間でも用いられている心理学は、実は悪魔自身から生まれたものなのです。見掛け倒しの専門用語で人々を魅惑し、自分はこれを通して助けを受けることができると信じ込まされますが、多くの場合、期待に反する結果

に終わります。

心理学は人を治すためにあるのではないということを、今日人々は理解せず、その破壊的セラピーによって家庭を壊されていっています。ある著名な牧師が、心理学者に彼の治癒率について訊ねました。ためらいもなく心理学者は、「治る率などありません。というのも心理学者は人を治すのではなく、問題に対処する手助けをするだけです」と答えました。それは溺れている人に救命具を（しかも水に浮かぬ救命具を）投げてそのまま素通りし、本人が自分の問題に対処するがままにしているようなものです。このような心理学者の罠に多くのクリスチャンがかかるとは、何と悲惨なことでしょう。

クリスチャンの牧師や著述家たちでさえ、彼らのカウンセリングや教えに心理学や人間の理論を織り込んで、イエス・キリストの福音をはなはだ分かりにくいものにしてしています。多くの場合、サタンはいわゆる「クリスチャン・カウンセリング」という手口を通して、教会内に心理学を持ち込んできました。キリスト教信者は、別の神々を拝まされていないでしょうか。あまりにも多くの場合、キリスト教が心理学化されたために、心理学がキリスト教化されてきました。

そろそろ私たちは、目に見えない勢力との超自然的戦いの只中にいることに気づかなければならない時なのです。そして、それは心理学的知性（主知主義）によってではなく、天来の力によって超自然的助けを得て戦わねばならないのです。私たちは、神の言葉を擁護するために、聖書に記されている神の方法で戦わねばなりません。

あなたを滅ぼそうと日夜働いているサタンと彼の悪霊どもとの日々の戦いにおいて、勝利を得ることができるよう、実際的な聖書の道具を提供し、罪の柵から解放を手助けをしたいというのが、私たちの心からの願いです。勝利はイエス・キリストによってのみ

得られます。すなわち、イエスの御名と御言葉に示されている武器を用いることによってです。

この小冊子を通して私たちが提供する情報が、読者諸兄にとって祝福となりますようにと祈るばかりです。各自の状況に応じて、これらの道具を日々用いることによって、多くのすばらしい証が聞けることを期待しています。あなたのために発揮される天の力を目撃すると、あなたの心に、その大いなる解放者であられるイエス・キリストをもっと知りたいという痛切な願いが湧いてきます。あなたにとって、日々イエスは、より現実的な存在となります。この親密な関係のために、あなたは他の人に分かち与えられる、わくわくするような経験を持つようになります。

この小冊子を読む前に、祈ることを強くお勧めします。あなたがこの情報を得ないようにと、闇の勢力はありとあらゆる手を尽くします。でも覚えていてください。イエスは囚われ人を解放するために来られたのです。今日もですか？そうです、今日も！

悪魔の影響力を認識する

数年前、私たちはカリフォルニア州のパームスプリングスで開かれた聖書協議会で、たまたまインドからの宣教師と話す機会がありました。霊の戦いについて話し合っている中で、彼は次のように言いました：「この国のクリスチャンたちは、悪霊はみなわが国（インド）にいてと思っているようですが、言っておきますが、この国の方が悪霊の活動は活発です。私の国の人々は霊界が実在することを認めているので、イエス・キリストの力が、彼らを悩ませているどんな勢力よりも強力だと分かれば、彼らはすぐにイエス・キリストの名を呼び求めます。しかしアメリカの人々は、悪霊の活動を認めようとしません。従って、聖書が命じている方法で対応しようとしません」。

今日のクリスチャンの多くは肉欲や世との戦いを認めますが、サタンの勢力、つまり悪霊との戦いになると、それは世界の他の場所で起こることかのような態度をとります。彼らは、サタンとその手下どもは主として原始的で、教育のレベルが低い国で働いて、その無知な人々を利用するものだとばかり思っています。この教養ある社会において、悪魔が精力的に活動しているという思想を抱くことすらばかげているというのです。私たちは悪魔よりも賢く、いずれにしてもクリスチャンは悪霊に憑かれることはないというのです。

これらの思想は、直接サタンからくるものです。そして、往々

にしてクリスチャンはこれを受け入れています。悪霊の活動を見分けるには、自分自身の生活において霊の戦いが実際に起こっていることを、まず理解しなければなりません。著名なクリスチャン著述家たちの間でさえ、「新約聖書のどこを見ても、クリスチャンが悪霊につかれた記述は全くない」と大胆に言う人がいます。何という盲目でしょう！イエスはヨハネ 8：44 において、当時の教会の指導者層であったパリサイ人たちに向かって、「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出て来た者である」と言われました。また彼らは、悪魔の欲望どおりを行おうと思っているのだと、イエスは言われました。彼らは今日でいう牧師、教団の指導者たち、また理事長などに相当します。にもかかわらず、彼らは悪魔から出てきた者と言われています。悪魔の「欲望どおり」を行うには、ある程度サタンに支配されていなければなりません。

イエスがマタイ 10：5－6 において、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。むしろ、イスラエルの家の失われた羊（自称クリスチャン）のところに行け」と彼の弟子たちにお命じになったのには、何らかの理由があったはずですが、人々を教え、病人を癒すだけでなく、イエスは彼らに悪霊を追い出す力をも授けられました。もしクリスチャンは悪霊に憑かれられないのであれば、どうしてこのようなことを言われたのでしょうか。マタイとマルコとルカの福音書は、今でいうクリスチャンたちの中で悪霊たちが活発に働いていた記述に満ちています。

- **マルコ 1：21～28/ ルカ 4：31、32**——会堂（教会）にいた汚れた霊につかれた人の記述。
- **ルカ 8：2**——ここに記されている婦人たちは、イエスの一行について奉仕をしていた女たちです。でも彼らの中のある者たちは、悪霊を追い払ってもらった経験の持ち

主でした。

- **ルカ 13 : 10 - 21** ——ここに登場する女性は、18年間も悪霊がもたらした肉体の病を持っていました。「十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘」と記されています。彼女はイエスに従う者、今でいうクリスチャンだったのです。

サタンと罪は切っても切れない関係にあり、クリスチャンも罪と無縁ではないのです。クリスチャンが自発的に、つまり故意に罪を犯すたびに、自分の身をサタンの領土に置くのです。このような状況ではサタンに支配権があり、多くの場合、ある程度その人を支配するのです。

「支配」という言葉は、悪霊に憑かれている、または悩まされている状態をよりの確に描写しています。聖書で悪霊に「悩まされている」とか「憑かれている」という時には、常にある程度、悪霊の支配を受けている時でした。ご自分が十字架にかかって苦しむことを述べられたイエスに反対したペテロは、「とり憑かれて」はいませんでしたが、少なくともその瞬間だけ、確かに彼の口はサタンに支配されていました。しかし、悪霊に憑かれてはいなかったにもかかわらず、イエスはペテロではなく、サタンをお叱りになりました。

どのような場合でも、悪霊の活動はいつも同じ方法で対処されました。つまり、悪魔とその悪霊どもを戒め、出て行くように命じられたのです。

要点はこうです。もしクリスチャンが自分の生活上一つの点においてもコントロール〔抑制〕できていないことがあれば、他の力がその分野を支配しており、聖書の教えによれば、その力を戒めてサタンの力を打ち砕く必要があるのです。

悪霊に憑かれていますように、悩まされていますように、原則は同じです。私たちイエスを信じる者は、彼の名によって、サタンと地獄のあらゆる軍勢に打ち勝つ絶対的権威が与えられているのです。

クリスチャンの牧師や著述家たちによって私たちが常に聞かされている神話、または嘘は次のような思想です：

「悪魔と聖霊は同時に同じ場所にいられない」。

クリスチャンがこの思想を好むのは、これによって偽の安心感が得られるからです。サタンと彼の悪天使たちも、この思想に大喜びします。その理由は、「支配」されている人がこれによって絶望に陥れられるからです。

もしもこの思想が真実であるならば（真実ではありませんが）、麻薬やアルコール依存症の人、売春婦、またオカルトに関わっている人などに、望みは一切無いこととなります。聖霊は罪の自覚を促すために、サタンと悪霊たちが宿っている人々の心に働きかけられないことを意味するのです。

もちろん聖霊と闇の軍勢が、互いに一致協力しないことは真実です。しかし、悪霊どもが働いているその場に聖霊もいなければ、墮落した人を悔い改めに至らせるために、その人の心と思いに聖霊は働きかけられません。

例を挙げてみます。光がない真っ暗な部屋があるとしましょう（これは失われた人の心を表します）。その部屋の片隅でマッチに火をつけたとしても、部屋の99%はまだ真っ暗です。次にランプをつけたとします。光は増えましたが、それでも部屋の大部分は暗闇に覆われています。ランプを次々とつけていけば、いずれ十分な光が発せられて暗闇はなくなります。でも十分な光がその部屋に持ち込まれるまでは、そこには同時に光と闇が存在したのです。聖霊が失われている人の心に働きかけるのも、ちょうどこのような有様です。

今日、悪魔は自分の時間が短いことを知っていて、「ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて」います。問題は、クリスチャンである私たちがそれに気付いていないことです。それでお互いにけんかし、いがみ合って人生を送るのです。

エペソ 6：12 では、この戦いは人と人との間のものではなく、イエスに従おうとするすべての人、または家族を滅ぼすことにひたすら集中している凶暴な霊の勢力との戦いであることが言明されています。エペソ 6 章を読み進めていくと、この恐るべき戦いのことがさらに書かれており、これらの荒れ狂う悪の力から守られるために、神の武具を身に着ける方法も書かれています。

多くの親たちは、家庭崩壊、子供の反抗、離婚などで大混乱に直面しています。でも、その理由を把握することができません。幼い子供や十代の青年たちも、彼らの自称クリスチャン両親たちがけんかばかりしていて、次々と離婚していくのを見て、理解に苦しんでいるのです。キリスト教会の指導者たちも、世の中一般の夫婦とクリスチャン夫婦の離婚率が同じであるという信じがたい事実を頭を抱えています。憎しみ、怒り、暴力がはびこり、マスコミ誌はこれらの特集を出すほどです。

サタンがほえたけるししのように私たちが狙っていることを理解するのは、必要不可欠です。彼を避けて無視することは、私たちの永遠の生命を危険にさらすことです。この意図的な無知と盲目の故に、サタンはクリスチャンに、これほどの影響力と支配権を及ぼすことができるのです。

牧師であり著述家でもあるマーク・ブーバック氏は、次のように述べています：

「信者がサタン的人格と働きについて無知であり続けることは、危険な過ちである。霊の戦いにおいて我々と個人的にこれほど関係のあるこの敵が、もし我々にとって神秘的かつ不吉な、また圧倒的な力を持つ抵抗できない怖い敵であるなら、我々は非常に不利な立場に置かれているのである。我々は聖書的観点から、サタンの策略と攻撃の手段についてできる限り知っておくべきである。また我々がサタンと彼の闇の世に勝利できる聖書の根拠も知っているべきである」。

ここで、私たちの生活の中に見られるサタンのいわゆる「足跡」を見ていきましょう。これは直接戦いを挑まれていることであり、真剣に受け止めるべきことです。

- ◆ 家庭内の不和。夫婦また親子の間の不和。
- ◆ 反抗。親の権威に対する十代の子供たちの反抗。霊的無関心。時にはキリスト教の原則そのものをばかにします。
- ◆ 家庭でのしつけの欠如。聖書に基づくしっかりとしたしつけがなければ、悪魔と彼の悪霊どもが家庭を支配します。これは確かなことです！
- ◆ 怒り。老若男女を問わず、理由もなく急に怒りだしたり、幼い子供はかんしゃくを起こし、怒りをコントロールできません。
- ◆ 家庭にある良くない物、または遊びや活動。良くない種類の音楽、コックリさんなど悪霊と関わりのあるゲーム、悪いテレビ番組、ビデオやテレビ・ゲーム、麻薬、気味悪いグロテスクな形をした人形やおもちゃで、悪をかawaii無邪気なものに見せかける物。

- ◆ 外見や身なり。流行を追う派手な髪型やヘアカラー、神のみかたちに造られた人間を醜く、また滑稽に見せる服装。慎みのない身なり。
- ◆ 恨み。自分の配偶者、子供、親、または教会や近所の人に対する恨みや憎しみ。
- ◆ 深刻なうつ状態や、自殺したい気持ち。現代の若者たちに広く浸透しつつあるこのような絶望感。
- ◆ 不倫。今日、悪魔は男女の情欲を掻き立てて、夫婦間で不貞を働くように仕向けています。
- ◆ 肉体を攻撃。ヨブ 2 : 7 は、悪魔が肉体的に人を苦しめる例の一つです。マタイ 12 : 22 には、悪霊によって盲目また口の聞けない状態にされていた男の記述があります。マルコ 9 : 17 - 27 には、てんかんの悪霊に憑かれた息子の話が載っています。(私たちは、全ての病が悪霊によるものと言っているわけではありません。しかし、人は食欲や情欲にふけさせようとする悪魔の誘惑に負けて、それによってまた多くの肉体の病が生じると信じています。)
- ◆ 肉体と言葉による暴力。家族の者に対する悪態や肉体的暴力。
- ◆ 婚前交渉。悪魔は若い青少年たちの間で、神が夫婦に与えた最も美しいものの一つを破壊し、歪めたいのです。
- ◆ 恐怖と突然のパニック。パニックはこの頃疫病のように人々の間で広がっています。クリスチャンでさえ、幾千という恐怖を通してがんじがらめにされています。悪魔の最も効果的な道具の一つが、彼に対する恐怖です。恐

怖を抱かせれば、イエスの名によって彼を叱り、追い出すことができないのです。

◆ 情欲。空想、自慰行為、またポルノなどにふける。

一人で十分

興味深いことに、家庭の和を乱すには、サタンに影響された人ひとりで十分なのです。家庭を救うために、私たちはこの悪魔の働きを見抜き、イエスの軍隊の兵卒とならなければなりません。

この章では霊の戦いの現実性と、家庭またあなた個人の生活において悪霊の影響を実際に見分ける方法とを簡潔に述べました。神は、これ以外の悪魔の影響を見抜くことができるように助けて下さいます。

イエス・キリストは彼の御言葉のうちに、問題の解決法を与えて下さっています。それらの答えは他のどこにも見出されません。読者のある人は、魅惑的な心理学や、いわゆる「聖書的カウンセリング」などといった療法に夢中になっているかもしれません。もしそうであれば、イエスだけが悪霊の力と罪の問題を解決することのできる唯一のお方であることを知っていただくよう、望んでいます。心理学界では罪や悪霊は存在しません。「キリスト教心理学者」やいわゆる「聖書的カウンセラー」によって書かれている学術的な本が、聖書の真理に取って代わっています。キリストは御自ら私たちの罪を負われました。そして、彼だけがサタンと罪と死に勝利し、それによって私たちも同じ勝利を得ることができるようにして下さいました。今は、答えをイエスにのみ求めるべき時です！

あなたは悪魔に心の扉を開いていませんか？

「ゆるし」の重要性

悪魔の最大の欺瞞の一つは、ゆるさない心を抱かせることです。それはしばしば「うらみを抱く」と言われています。ほとんどの人はそれに気がついていませんが、彼らの生活を捉えるために、ゆるさない精神を生み出す状況が、日常的に起こり得るのです。これは重大な罪であり、もしきちんと扱われなければ、救いを逸することにもなりかねません。これは死にいたる癌のように、その精神を抱く人を滅ぼしてしまうのです。

イエスが、マタイ 18 章でゆるしについて何と言われたかを見ましょう。ペテロが「兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか」とイエスに尋ねた当時、パリサイ人は、人をゆるすのは三回までと制限していました。ペテロはそれを七回まで増やそうとしました。しかしイエスは、ゆるすことに決してうみ疲れてはならないということを教えられました。「七たびまで」ではなく、彼は「七たびを七十倍するまで」と言われたのです。

イエスは、ゆるす王とゆるさない僕のたとえ話によって、その事を教えられました。たとえの中には、非常に際立ったいくつかのポイントがあります：

- 僕をゆるしてあげた王はキリストを表す。
- 僕が友人からゆるして欲しいと求められた負債に比べて、王（キリスト）にゆるされた僕の負債は莫大であった。
- 僕の莫大な負債の全てがゆるされた。
- 僕は非常に小さな負債を抱えた彼の友人をゆるすことにおいて、王の模範に従う機会がすぐに与えられた。
- 王の僕が、彼の友人をゆるすことを拒否した時、王によって与えられた恩赦は無効にされた。なぜなら、彼がゆるさなかったため、それは取り消されたのである。
- 僕が友人をゆるさないなら、王は彼をゆるすことができなかった。

マタイ 18:34, 35 には、「そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。あなたがためいめいも、もし心から進んで兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう。」(Amplified Bible より) と書かれています。

最初に、「ゆるし」という言葉の意味を調べてみましょう。ヴァイン聖書辞典には、次のように書かれています：「遠くへ送る、追い払うこと、負債をゆるす、完全に取り消す、刑罰の免除、無条件で好意を与えること、解放すること、釈放する、解き放つ」。

ウェブスター辞典には次のような意味が書かれています：「過ちを赦す、恩赦、支払いを免除する」。

マルコ 11:25 の Amplified Bible 訳には、ゆるしの意味についてとてもよい定義がなされています。「また、立って祈るとき、だれかに対して何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい（やめに

しなさい、放って置きなさい、放免しなさい)。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちや欠点をゆるし、それらを気になさらないであろう」。

なぜゆるしがこれほど重要なのかという理由を七つ挙げてみます。

1. **ゆるすことは神に対する服従**—神はゆるすように言っておられます。「互に情け深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい」(エペソ 4:32)。
2. **ゆるしは信仰を成長させる**—マルコ 11:22-26 でイエスは、山を動かすほどの信仰を持つことに関連づけて、ゆるしについて語られました。私たちは創世記の中に、何度も神によって誉れを受けたヨセフの揺るぎない信仰を読みます。もし彼が、兄たちが彼に対して行った仕打ちのために、彼らを自発的にゆるさなかったとしたら、彼の信仰は実を結ばなかったことでしょう。ゆるさない精神は信仰を打ち碎きます—これらは共存することができません。
3. **私たちから靈的汚れを取り除く (ゆるさない心自体が靈的汚れ)**—箴言 18:14 には、「人の心は病苦をも忍ぶ、しかし心の痛むときは、誰がそれに耐えようか (口語訳)」「人の靈は病にも耐える力があるが、沈みこんだ靈を誰が支えることができよう (新共同訳)」と書かれています。あなたの靈の上へのしかかる重荷 (不潔物、ゆるさない思い) を避けましょう。私たちの内なる人が、血によって洗いきよめられなければなりません。
4. **ゆるしは魂の苦悩を取り除く**—ゆるさない精神は、憂鬱、

喜びの欠如、心の重苦しさ、不幸せ、何かしっくりいかない気持ちをもたらします。ゆるさない心は魂をむしばむのです。それは霊肉ともに、ゆっくりと死に向かわせます。ゆるすことはこれらすべてを取り除き、平安をもたらします。

5. **ゆるしは私たちと神との「個人的関係」を妨害しているものを取り除く**—ゆるさない精神によって、祈りの生活が妨げられます。もし私たちがゆるさないなら、神は私たちをゆるして下さらないでしょう。マタイ6:14, 15には「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう」と書かれています。私たちの良心の内にゆるせない心を抱きながら、神との関係を持つことをどうして期待することができましょう。これは全くの不正直であります。
6. **ゆるしは私たちに愛する能力を与える**—一人がゆるさない精神を抱いているとき、正しく愛することができません。夫と妻が互いに悪感情を抱いているときは、すぐに分かるものです。なぜなら、夜眠る前に抱き合うことに困難を覚えるからです。ゆるさない精神は、現在と将来の関係を壊します。なぜなら、愛とゆるさない精神は正反対だからである。逆に言えば、ゆるすことはイエスの愛が流れる扉を開くことになります。
7. **ゆるしは悪魔への扉をバタンと閉める**—ゆるさない精神は、サタンに対する扉を大きく開き、憎悪や憤りといった他のことを引き起こすことになります。これら一つ一つは癌のように成長し、その人全体を汚してしまいます。

あるクリスチャン作家は次のように述べています：「ほとんどの場所でサタンがクリスチャンの生命を手に入れているのは、ゆるさない精神によるのである」。

私たちがゆるすとき、悪魔はやって来て私たちに苦しめることができません。

あなたの生活にゆるさない精神があるかどうかを、どのようにして知ることができるでしょうか。ゆるさない精神、憎悪に満ちた霊は、非難し続けます。誰かがあなたを怒らせるたびに、直ちに彼らが自分の感情を害した別の時のことをすべて思い出します。これを「過去想起症候群」と言います。憎悪や憤りを産み育てるゆるさない精神は、実に悪魔がクリスチャンに対抗して用いる最大の道具の一つであります。

このために多くの人々が、ほとんど耐えられないほどに傷ついているということは、否定できない事実であります。悪魔はそれに加え、彼らにささやくことによってそれを悪化させたいと思っています。そうすることによって、憎悪と憤りの釘をさらに深く打ち込むようになります。

無論、サタンの望みは彼らが神に対して怒りを抱くことです。それは多くの場合、憎しみに変わります。ついには、その人を絶望の淵に追いやってしまいます。そしてサタンの次のステップ、最終目的である自殺へと、やすやすと導くのです。

あなたの周囲を見て下さい。ゆるさない精神を起こすために、あなた自身あるいはあなたが愛する人の日常生活の出来事さえも、サタンがいかに巧妙に首尾よく用いているかを見てみましょう。

親愛なる皆さん、サタンのこの恐ろしい欺瞞のために、倒れることのないようにしましょう。他の人に対して自分はゆるさない権利があると思われる出来事の中で、しばしイエスの生涯に目を向けて

みましょう。十字架の直前に、彼がどのような体験をされたかを垣間見る時、私たち自身の状況が非常に異なるものに見えてきます。

イザヤ 50 章には、悪人たちがいかにしてキリストのひげを抜き、いかにして彼を侮辱しつばを吐きかけたかが描写されています。イザヤ 53 章には、彼がどんなに侮られ捨てられ、悲しみの人で病を知っていたかが書かれています。彼はいかにして受けられたすべての傷、罪の重荷の苦悩を耐えられたのでしょうか。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書には、キリストの死の最後の数時間の生々しい描写があります。ゲッセマネにおいて、彼の手中の杯が震えたのを私たちは見ます。彼の人性は、私たちの罪の重荷の下で叫んでいました。その重荷はあまりにも強烈だったため、まさに「血のしたたりのよう」に汗が落ちました。

情景はそこで終わっていません。彼は、戻ってきて、弟子たちがただ眠っているのを発見します。彼を祈りによって支えるべき者たちが、彼を見捨てました。それから、「刀や棒」を持って、イエスを裁判所へ連れて行くために捕らえようとやってきた、暴徒たちの足音が聞こえてきました。

その日にペテロが試みられ、イエスを知らないと言って彼を否定しました。この事は、イエスにかなりの打撃を与えたことでしょう。

偽りの証人たちが前に出て、イエスを責め訴えました。群集はますます興奮し、「十字架につけろ、十字架につけろ！」と繰り返し始めました。兵士たちはイエスを捕らえ、全部隊でイエスを取り囲んだのでした。彼らはイエスを鞭打ち、紫の衣を着せました。いばらの冠を頭にかぶらせ、葦の棒を手を持たせました。そして彼らは、ひざまずいたり、つばを吐きかけたり、あざけったりしました。カルバリーへの途上、イエスの力は尽き、十字架の重みで倒れてしま

いました。死刑場にたどり着くと、彼らは木の十字架に彼を横たわらせ、手足を釘付けにしました。力の強い人が十字架を持ち上げ、地面に差し込むと、神の子の肉がさけました。もうひとたび、彼らは頭を振り、あざけり、イエスに自分自身を救って十字架から降りて来いと挑発しました。これらの多くは、イエスが慈愛を持って触れ、癒し、教えた人々であり、その中には悪霊を追い出してもらった人もいました。それでも彼らは、イエスを拒んだのです。

サタンと彼の手下どもは全員その場において、イエスをなじっていました。彼らは、彼の耳元で彼を痛めつける言葉をささやいていました：「あんたの友だと言っているこれらの人々、他の誰よりも自分は霊的だと言う人々が、あんたを拒んできた。あんたの教えに耳を傾けてきた弟子たちでさえ、あんたを裏切った。すべての人があんたを捨てるだろう。十字架の周りに立っている人々はあんたを憎んでいる。奴らはあんたの死に値する者ではない。奴らは犬だ。なぜ奴らのために死ぬのだ？十字架から降りてきて、我々を拝むのだ。そうすれば、あんたの欲しいもの全てをあげよう」。実際に彼らがイエスに語った言葉に比べれば、これらはとても生ぬるいはずです。彼らは、人間の基本的感情—拒絶、憎悪、憤り、憎しみ、疑い、ゆるさない精神、報復、怒り—を通して、イエスを陥れようとしていました。彼らはただ、イエスが死ぬ前に彼を征服したかったのです。そうすれば、人類すべてが永久に失われるのでした。

それだけではありません。イエスは父なる神が背を向けられたように感じられました。彼の人性がそれに耐えかねて、「わが神、わが神どうして私をお見捨てになったのですか」と叫びました。誰もが彼に敵対しているかのように見えたにもかかわらず、悪魔にとりつかれた悪人たちを見下ろし、こう言われました：「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、分からずにいるのです」。

親愛なる友人の皆さん、あなたがゆるさない精神を抱くように試みられるとき、どうかイエスのことを思い出して下さい。どんなにひどい仕打ちを受けたとしても、私たちはいつもこう言うことができます：「自分は十字架につけられているわけではない」と。そして「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、分からずにいるのです」とのイエスのお言葉を繰り返しましょう。ゆるさない精神を通して、サタンにあなたの救いを奪われてはなりません。

あなたの感情を害したからという理由で、相手に仕返しをし、冷たくあしらうように、また不親切をあらわすようにと、サタンがあなたにささやく時、彼にこう言しましょう：「イエスの御名によって命じる。サタンよ退け。私にとって不愉快な者よ。私はもうこれ以上お前の偽りを受け入れない。今すぐ出て行け」。

もしもあなたの内にゆるさない精神があるのなら、それが家族に対してであれ、知人に対してであれ、ゆるす霊を与えて下さるよう神に求めましょう。どうか、私たちがゆるす精神を抱くことができるよう、神が助けて下さいますように。

あなたにゆるしの精神を与え、過去を水に流す助けとなるステップ：

- 自分の感情を害した相手をゆるすことを選びます、と神に告げましょう。
- 屈してしまった誘惑—ゆるさない精神、憎悪、憤り、怒りなどといった罪を赦して下さいさるよう神に求めましょう。

- その人物あるいは出来事をイエスの目を通して見ることができるよう、助けを神に求めなさい。イエスは私たちの罪を憎まれますが、私たちのことをどれほど愛して下さっていることでしょうか。彼は、もし私たちが仲間に対しても同じようにするなら、私たちのすべての罪を赦して下さいと約束しておられます。
- 悪魔が戻って来て、あなたはゆるされていない、あるいは他の人をゆるしていないと信じさせようとする時、また彼があなたに「過去想起症候群」を起こさせようとする時、そのことはイエスにお委ねした、それについてはイエスのところへ行って話ささいと彼に告げ、すばやく悪魔を追い返しましょう。聖句を声に出して読み、イエスの歌を歌いなさい。そうすれば、ふさいだ気持ちが晴れ始めるでしょう。気持ちがすっかり晴れ、あなたの心が変わえられるまで、これをやり続けて下さい。
- 過去においてあなたが誰かに対して抱いたゆるさない精神を、悪魔がことごとく思い起こさせようとする時、彼にこう告げなさい：「このような方法でお前が戻ってくる度に、自分のためにお前を追い出すだけでなく、私はさらに祈り、誰か他の人の人生においても働いているお前を縛り上げよう」。私たちはこれを、「ダブルパンチ」と呼んでいます。
- あなたの感情を害した相手に対して、ゆるさない精神を行為で示した時は、その人のところへ行きゆるしを求めなさい。但し、それが相手や身近な人を傷つける場合を除いて。

サタンの攻撃に対抗してあなたの 思いをコントロールする方法

小さな男の子が食料品店に入ると、真っ赤でおいしそうなりんごが彼の目に留まります。突然、我慢し難いほどの空腹感を覚えます。りんごを見たその瞬間、良い思いと共に、悪い思いが彼の心に押し寄せてきました。

以下の点に注目してみましょう：

「お腹すいたなー。でもぼくお金ぜんぜん持ってないよ。誰にも気づかれずにポケットにりんごを入れたらどうなるかなー？」

「でもそれはよくないよ。盗むことになるもん。」

「これ一回きりさ、誰にもわからないよ。」

「やっちゃだめだよ、よくないことだもん。これはひとの物なんだから。」

「やっちゃえ、これ一回きりだ、少し近づいて手にとって見てごらん。きっと誰にも知られることはないさ。」

「ぼくはそんなことすべきじゃない。一生後悔する。」

「このきれいでみずみずしいりんごがどんなにおいしいか、ただそれだけを考えてみてごらん。だって、聖書にも他の人の土地を通り過ぎるとき食べることは正しいことだと書いてな

い？食べちゃえ！」

「お願いだからしないで。イエス様は喜ばれないよ。」

「ぼくのポケットは大きいから、周りには誰もいないし、見られることはない。さあ、やっちゃえ。」

これは、毎日が覚めているすべての時間において、すべてのクリスチャンの心の中で続いている戦いの、極めて典型的な状況を仮想したものです。この例はごく簡潔に書かれていますが、クリスチャンの心の中で続いているこの戦いは、しばしば永遠の生命または死に結びつきます。そして「ぼく」という言葉が使われているため、本人はそれが彼自身の考えだと思えます。悲しいことに、ほとんどのクリスチャンは、この戦いの出所が分からず、理解していません。

祈っている最中に、なぜ自分の思いがこんなにも散漫になるのか不思議に思ったことはないでしょうか？時折、これらの思いは悪の性質によるものです。あなたは「祈っている間でさえ、自分の心を正しい場所にとどめておくことができない」と言うかもしれません。その「心の放浪」は、あなたが行っていることではない可能性もあります。エバをそそのかしたのとほとんど同じ方法で、私たちの心を攻撃する能力をサタンが持っていることを、使徒パウロは述べています。「ただ恐れるのは、エバがへびの悪巧みで誘惑されたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである」（Ⅱコリント 11:3）。

心の中に突然ある思いが浮かぶ時、それがあなた自身のものではないかもしれないということを考えてみたことはあるでしょうか？覚えていて下さい。暗示によって、サタンはあなたを操ることができるのです。次の例に注目して下さい：

例②

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>ある早朝… 輝く…♪ 日をおおぐとき♪</p>  |  | <p>大いなる…み神を…わがたま</p>  <p>♪ I believe!</p> | <p>ちょっと待って！これは、私の考えではないわ。サタンったら、またやっているだわ。</p>  <p>サタンよ、私はイエスのみ名によってお前を阻止する！私は、サリーについての考えを受け入れないわ。今すぐ出て行け！！</p> |
| <p>ナンシーは、仕事へ行く支度をしながら、賛美歌を口ずさんでいました。その朝は、まだ同居人のサリーに会っていませんでした。</p> | <p>昨日の夜、サリーは血洗いをしなかったに違いないわ。きつとそうよ！</p> | <p>ナンシーは、この考えがイエス・キリストに従ったものではないということに気がつきました。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>わがたまいざいたたえよ、大いなるみ神を～ わがたまいざいたたえよ、大いなるみ神を～</p>  | <p>おはよう、サリーー！ 昨日の夜は、血洗いありがとう。</p>  <p>良い一日を！</p> |
| <p>ここでは、ナンシーはこの考えの本当の出所を尻振りしました。彼女は、イエス様の力を用いて、この出所（サタンや彼の手下たち）に抵抗し、勝利しました。</p> | <p>これは、「すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ」る実際的な例です。 (2 コリ10:5)</p> |

これを知ること、あなたは健全な疑いをもって、心にかけてめぐる事柄を扱い始めるようになるでしょう。

サタンは大嘘つきです。彼は、惑わす邪悪な暗示をもって、エバに嘘をつきました。今日、彼はあなたに同じことをしようと試みません。特に、あなたが祈りの中で神に手を伸ばそうとしている時に、です。敵が心に投げかける思いを認識し拒絶しない限り、クリスチャンが自らの霊的生活を成功させるのは困難です。Ⅱコリント 10:4, 5において、パウロは次のように述べています：「わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ」る。

神にあって働き、あるいは安んじることから心を引き離すために、サタンがすべてのクリスチャンに対して特定の霊を割り当てる可能性は大いにあります。あなたの思考生活は戦場です。もしこれが信じられないなら、試しに、たった二、三分でもあなたの思いをイエスに留め、清く保ってみてください。すぐに、自分が思考の戦いの中にいることに気がつくでしょう。霊の戦いは、心の戦場において勝利か敗北かをもたらすのです。その人がこれを認識し、これらの悪霊に抵抗する行動をとり、思考生活を清めるまでは、その他すべての霊的活動はむだになってしまうことでしょう。

詩篇記者は、神に仕える者たちが清い心を持つことを、神は望んでおられると言っています。「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしき事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である」（詩篇 24:3, 4）。

思考生活を攻撃するためにサタンが用いる典型的な方法は、通常、

タイミングの良い暗示であります。サタンは、特にその人の弱いところ、傷つきやすいところを熟知していて、この暗示については、高度な技術を持っています。注意深くこころあいを見はからって暗示を与えますが、それが危険な結果を生むきっかけとなるのです。サタンは、絶妙なタイミングでその人の欲望を駆り立て、弱さに訴えるための暗示を与える達人です。食料品店でりんごを見た小さな男の子について考察しましょう。悪魔は、その子が空腹で、彼の目がどこに向けたかを知っていました。ちょうどその瞬間、サタンはタイミングの良い暗示を吹き込んだのです。

教会の理事会にやって来た長老が、会議が始まる前に、良い関係をもっていない別の長老と牧師が、部屋の隅でひそひそと話しているのを見かけた場合はどうでしょう。悪魔はタイミングの良い暗示を吹き込みます：「彼は、ひそかに牧師と何かたくらんでいるにちがいない」。理事会の間中、この一連の考えにとりつかれることがあり得るのです。

悪魔は、この長老が別の長老のことをどのように思っているか知っていました。彼はある期間、彼らの相互の影響を注意深く観察してきました。事実、悪魔はこの会議の始まるずっと前から、この二人の男性に、互いに敵対する思いを与えてきたのです。そして、彼らの言葉や一挙一動によって、彼が吹き込んだ暗示を彼らが受け入れていたことを見ました。

教会に行くべき時間になり、あなたが忙しく準備している時、突然ある思いが浮かんできます：「本当に疲れたなー。今週は忙しかったし、私には休みが必要だ」。これはあなた自身の思いのようですが、実は、そうではありません。これは、恐らく悪霊から来ているものでしょう。

あるいは、教会の誰かがあなたのそばを通り、声をかけずにただ

会釈して行ってしまったとしましょう。あなたは、「きっと私に対して怒っているんだ。もっと私に関心を示してもいいはずなのに」と思い始めます。ここでもまた、敵によって自己中心の思いが吹き込まれたのです。サタンの暗示は、通常、利己心の欲望と熱望に包まれてやって来ます。

人がその誘惑の出所を理解せず、心に吹き込まれた思い（暗示）を受け入れる時、ある進展が起こります。悪魔が誘惑を吹き込むのは、私たちの思考過程を通してであることはお分かりでしょう。私たちの思考と関連して、悪魔は神が下さった想像力を歪め、空想の世界でそれを使うのです。悪魔は、その人が外部の行為において屈する以前に、心の中でその誘惑通りの行為に走るよう、その人を捉えるのです。

ここにその進展を箇条書きします：(次頁の思考チャート参照)

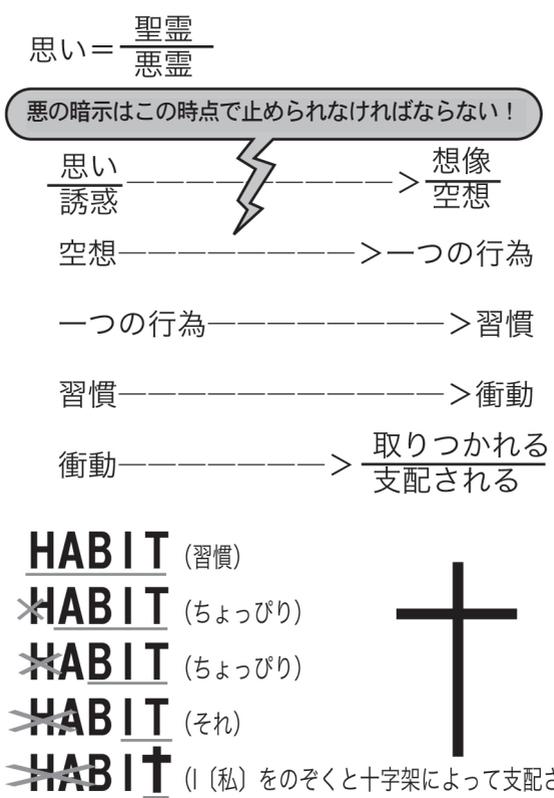
- 思い→誘惑→空想
- 空想→一つの行為→習慣
- 習慣→おさえがたい欲望や衝動→悪霊に取りつかれる、または支配される

悪魔は、人が誘惑に屈して一つの行為に走るまで、想像力に働きかけます。人が一度、ある特定の状況で誘惑に屈すると、彼にとってその罪を繰り返し犯しやすくなることをサタンは知っています。彼（悪魔）は、一つの行為が習慣に変わるまで、その人の弱みにつけこめるすべての状況を利用するために、必ず悪霊たちを近くに待機させているのです。

やがて、その罪が日常茶飯事になります。こうなってしまうと、それはその人が欲するからではなく、選択の能力を捨て去ったため、あるいは悪魔が意志の役割の大半を盗んだためにそれが行われるよ

うになります。それは衝動となり、選択するための意志力をほとんど失ったため、それを行うことを強いられるようになります。彼は、悪魔がまもなく彼の生活において、一つまたはそれ以上の領域で完全に支配権を持つまで、悪魔によるタイミングの良い暗示に耳を傾け、それに応じて行動し続けるのです。これが「悪霊にとりつかれる」と呼ばれている状態です。但し、「支配される」という言葉の方が、状態をよく表わしています。さて、これらはすべて、行動に移される前に心の中、思いの中で始まりました。墮落への進展の一步一步

思考チャート



において、悪魔がその人にとりつき、あるいは支配するまで、罪が絶えず心の中に沸き起こってきたわけです。

心の中での戦いが理解されていないため、多くの人が思考過程において誘惑に屈し、罪を犯してしまうのです。これこそ、悪魔がクリスチャンにさえも取りつき、支配する手段であります。ある人が自分自身を「クリスチャン」と呼ぶことができても、彼の思考を抑制できず、これらの思いをキリストやすべて良いものに持って行くことができなければ、彼が暗黒の悪の勢力に支配されることは確実となることでしょう。

ここであなたは、もしかしたら、「どのようにして私の思いや感情を抑制あるいはコントロールすればよいのだろう」と質問されるかもしれません。悪い思いに対抗する、私たちの戦いの武器を見てください。

- 私たちはまず、心の中にどんな悪を入れることをも避けなければなりません。
- 神からの思いではないことに気づいたなら、イエスのみ名によって悪霊を追い返し、「これらの思いを持って出て行け！」と命じましょう。「イエスのみ名によって」、天のみ使いが来てあなたのために戦ってくれるように、彼らを呼びましょう。
- これらの悪い思いに替えて良い思いを与え、そしてイエスの血のもとに自らの心を置いて下さるよう、神に祈りましょう。
- 聖句を引用し、読みましょう。可能な時は、声に出して読むとよいです。

- よいクリスチャンの歌を歌いましょう。「罪重荷を除くは・・・」はよい歌の一つです。
- 神のすべての祝福に対する感謝と誉れで心を満たしましょう—できるだけ具体的に。
- あなたの心に入れられた思いに反応する代わりに、イエスの力にああなたの思いを意識的に集中させましょう。

神が、私たち一人一人が心をきれいにする助けをして下さり、それによって聖霊が心に来て住むのを恥じることはありませんように。



告白と悔い改め

アンは、友人のエレインに伝えなくてはならない大切なメッセージに、心を集中させようとしていましたが、エレインが身に付けているピンが邪魔をしていました。それは、人々が選挙のとき襟につけるような丸いものでしたが、非常に醜いものでした！まるで子供が何色もの絵の具を落としてこすりつけ、汚いかたまりにしたようでした。不愉快な芸術によって興味がそそられ、アンはそれが何を意味するのか知りたくなりました。

「ああ、これ？」エレインは答えました：「これは迷路よ。イエス様へ立ち返る以前の私の人生そのものなの」。そして、彼女にとってイエスがどういう方か、イエスが彼女の人生をどのように変えて下さったかについて、短く美しい証をしてくれました。

「迷路」という語句について、ウェブスター辞典には次のように書かれています—「まごつかせるような、複雑な曲がりくねった道のネットワーク」。

毎日、大勢の子供が、罪深い生活が当たり前のような機能不全の家庭に生まれてきています。どおりで彼らは、何が正しく何が間違っているかあまり理解せずに成長しているわけです。普段、私たちが接する人たちの多くが、自分たちは罫にかかっている、迷路から出ることができないと感じているのです。彼らは逃れるすべを知りません。この混乱した人生は、うわべだけの観察者にははっきり見えないかもしれません。それは、火をつけられるのを待っている炉の

ようなものです。逃れるすべはあるのでしょうか？答えは、YESです。

どんなに人生がもつれていても、知っておくべき二つの大切なことがあります一苦しんでいる人は、自分がいるその場所で得られる助けがあること、そして、抜け出すためには助けが必要であるということ一であります。ジレンマの中にあっても、孤独ではないのです。「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」います（ローマ3：23）。

サタンが私たちを利用するままに放っておくのは罪であります。罪を認識し、それが私たちに何をするか、それにどう対処するかが、この本に書かれていることのすべてです。この事を理解しない限り、私たちは、サタンの迷路から抜け出すことはできないのです。

罪の告白の重要性

「私の人生はめちゃくちゃだ。もうやめたい。何年も精神療法に通ったけど、うまくいかなかった。私は今までないほどに悪い状態だし、もう誰も私を助けられないなら、自分自身で逃れの道を見つけよう」。このような思案の結果は、今日マスコミをにぎわしている様々な事件であります。それでは、真の逃れの道はあるのでしょうか？



このような迷路生活から逃れるために、私たちは何ができるのでしょうか？まず私たちは、生活が混乱、絶望、憂鬱、怒り、恐怖、不安に満たされていることに気がつかなければなりません。数え切

れないほどの「恐怖症」が、目に見えない巧妙な敵によって私たちのもとに持ち込まれています。これらは、悪魔の戦いの武器であります。

私たちが戦いのさなかにいるということに気がつかない間は、私たちが自由に使える有効な武器、そしてこの戦いに勝つために用いるべき武器について知らないこととなります。

あなたに絶望の人生をもたらすものは何であれ、その背後にはサタンがいます。だからあなたは、サタンに勝利なさった唯一のお方、イエス・キリストを求めなければなりません。悪の勢力はひそかに策略をもって働くので、彼らが何者なのか、私たちに何をしているのか、私たちは分かっていません。イエスは、ご自分の手引書である聖書の中に、サタンから救出されるための答えを置かれました。聖書は神の言葉です。それは、ただ単に始めるのではなく、始めるべきところでもあります。では、御言葉の中で神が私たちに何を語っておられるかを、調べてみましょう。

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(1ヨハネ1：9)。

逆説的に述べてみますー「もし、わたしたちが自分の罪を告白しないならば、**神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるさず、すべての不義からわたしたちをきよめて下さらない**」。いずれにしても、**神は真実で正しいかたであり、決して変わることはありません**。

告白はとても重要ですが、いつも正しい動機で行われているわけではありません。ある人は、経済的な負担を避けるために、とりあえず告白するかもしれません。他人との関係をととても気にすること

が、告白の強い動機となり、その人との関係を保つためなら何でもするということがあります。告白の理由はたくさんありますが、私たちの考え方と共に、行動の仕方も変えるものだけに焦点を当ててみます。

罪が、私たちを神から離れさせます。告白することと、赦しを神に求めることによってのみ、不和がいやされます。告白はどれほど重要なものでしょうか。それは、キリストによって、サタンの王国に戦いと恐れをもたらします。

Ⅰヨハネ1：9に書かれている「告白」という語句は、ヴァイン聖書辞典によると、「自分が責められていることに関して罪を認める方法によって告白すること、内的確信の結果。つまり告白は基本的に、深い確信から来るものを心の底から認めること、宣言すること、認識すること」とあります。ここでヨハネは、罪の言い訳や自己弁護は意味のないことだと言っているようです。

最も重要なことは、私たちが犯した罪を心の底から謙遜に認め、神の前に来ることです。

日常会話において、告白するとは、「白状する」、明るみに出す、真実を語る、結果と向き合う、事を正すという意味があります。告白することによって、あなたは父親友イエス・キリストとのすばらしい関係において、平安を見出すことでしょう。

悔い改めの重要性

マルチン・ルターはかつて、クリスチャン生活は常に悔い改めの状態にあるべきだと言いました。しかし、告白と悔い改めの間には違いがあるはずで、弟子たちはその違いを知っていました。バプ

テスマのヨハネは、「告白せよ、天国が近づいたからである」とは言いませんでした。彼は「悔い改めよ！」と言いました。また同様に、ペンテコステの時のペテロも、「あなたがたすべての者が、告白して、バプテスマを受けよ」とは言いませんでした。彼は、「悔い改めよ！」と言ったのです。

ストロング・コンコルダンス〔聖書語句辞典〕には、「悔い改め」の意味が「すっかり変えること、違ったふうに考えること、顔をそむけること」と書かれています。

ヴァイン聖書辞典にはさらに詳しく書かれています：「新約聖書において、その主題は罪からの『悔い改め』に関係しており、この心の変化は罪に背を向けることと、神に心に向けることのどちらも含んでいる」。もし人が正直であるなら、「心の変化」は行動の変化を要求します。悔い改めは、心の変化と行動の変化の両方を含んでいなければなりません。人は、心を変え、彼の罪の本質が見えるようになったとしても、以前の生き方を愛するあまり、心の変化に伴う行動をしないかもしれません。

イスラエルに対するバプテスマのヨハネのメッセージは、悪の道を離れ、聖潔に戻る決断をすることによってメシヤに会う備えをしなければならないというものでした。イエスは、「・・・あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」（ルカ 13：3）と、悔い改めを説かれました。「ユダヤ聖書完全版」には次のように書かれています：「あなたの罪を離れ、神に立ち返らなければ、みな同じように滅びるであろう」。今日の私たちに対するメッセージも、イスラエルへのものと同じであります。私たちも、悪の道を離れ、聖潔に立ち返ることによってメシヤの再臨に備えるべきです。

悔い改めはチームワークを要求します。つまり、あなたとイエス・

キリストが新しい関係に入るのです。この関係は、イエスが戦いに参戦して下さった時—そうです、あなたのために！—何が起こったかを証するにつれて、さらに強くすばらしいものとなります。

結論

罪の告白は、自分が神の御前に罪を犯した（的をはずした）と認めることを意味します。私たちがこれをするとき、聖書は「・・・神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義（間違った行動）からわたしたちをきよめて下さる」と言っています。この時点で、過去は清算され、神は私たちを赦し、すべての不義から清めて下さいます。これが神のなされる分であります。そして、私たちのなすべき分は、悔い改めることであります。これは私たちが、方向転換をもたらすところの、心または思いの変化を持つべきことを意味します。罪深い行為をすべてやめましょう。どのようにしてやめるのですか？これは途方もない指令です。なぜなら私たちは冷酷な敵、私たちを誘惑して奈落の底まで引きずりおろすのをなりわいとしている、悪魔や悪霊たちに取り囲まれているからです。

どのようにして、私たちを常に悩ますこれらの罪に勝利することができるのでしょうか？どのようにして、これらの遺伝的傾向、あるいは鋼〔はがね〕の綱のように私たちを縛りつける罪の傾向に勝利することができるのでしょうか？黙示録の七つの教会に対する勧告が書かれている章で、イエスは繰り返し何度も「勝利を得る者は」という言い回しを用いておられます。特に、クリスチャンの社会において、罪に対する勝利がほとんど語られていない故に、これはとても重要なことであります。

霊的戦いは、中枢司令塔である心をめぐって行われています。聖霊は、罪だと分かっているそれをを行いながら生きている間、私たちに平安を与えません。心は大きな問題を抱えていることを知らせ、私たちは自分の心配事について友人に話すかもしれません。しかし、これは悔い改めではありません。それは単なる願望的思考にすぎません。後悔はしているかもしれませんが、自分自身のために武具を身に付けて戦いに突入するほど、十分には後悔していません。密かに自己の生活習慣を愛し、それから背を向けることを望んでいないかもしれません。

本書は、私たちの罪深い道に勝利し、罪に背を向け、もはやつまづかない者となるためのものです。これは、ナザレのイエス・キリストの名によって、古い生き方から背を向け続けることを意味します。今こそ、神の子らが神の武具を身にまとい、聖霊と天の力強い天使たちと共に協力し、自由を目指して戦う時であります。

イエスの内に勝利があります！

彼はとりこを解放するために来られました！

あなたの人生に勝利を得るために読み続けて下さい。

(注:誰かがあなたに、自分自身をゆるすことができないと話すと、その人が本当に言わんとしているのは、Ⅰヨハネ1：9にあるイエスの赦しを受け入れることができないということです。もし私たちが救い主を必要としないなら、私たちは自分自身をゆるすことはできません。「自分で自分をゆるす」という考え方は、人間を彼自身の救い主とする心理学的異教の考えです。)

イエスの御名によって

「私はあなたを憎んでいる！私はあなたを憎んでいる！—私の名は憎しみ！」この悪意に満ちた言葉は、悪魔的な男性の声で、三十代の女性の口から吐き出されました。彼女は、成人して以来受けてきた悪魔によるいやがらせについて、少なくとも一時間は私たちに話していました。彼女は、この問題をイエスのみもとに持っていきたいと決心しました。

私たちはほんの数秒前に、霊的戦いのための祈りが書かれたプリントを彼女に手渡したところでした。彼女は、静かにそれを読み始めました。すると彼女は、突然それをくしゃくしゃに丸め、床に投げ捨てたのです。彼女の目は細くて鋭く、真っ黒になりました。彼女は私たちのまん前に立ち上がりました。そしてあの言葉、「私はあなたを憎んでいる！私はあなたを憎んでいる！—私の名は憎しみ！」が彼女の口から出てきたのです。

その時私たちは、イエスキリストの御名と権威によって、この悪魔をすばやく叱責し、出て行くように命じました。彼女の中でしばらくあがいた末、悪魔は出て行くはめになりました。さらに悪霊たちが現れても立ち去るように、私たちは約一時間、彼女と共に祈りました。これは、約五年前の出来事です。私たちが知る限り、この親愛なる女性は今でも自由の身であり、忠実なイエスの証人であります。

イエスの御名における権威！今日ほとんどのキリスト教界におい

て、この権威はもはや認識されていません。確かに、これを信じて宣言している数少ない教派やグループはあります。しかし、「イエスの御名による」力の権威の大部分は忘れ去られてきています。これは、様々な心理学用語や、12ステップ・プログラム、自己啓発ワークショップ、気質と霊の賜物解析プログラムなどという、結局は自分自身を自分の救い主にするプログラムによって置き換えられてきています。これらは、イエス・キリストの福音の偽造物であります。人間の考えが、聖書の原則の代わりに用いられているのです。

今日、私たちの周囲のいたるところで、さらに多くの人々の顔と生活にサタンの品性が刻まれているのを見ます。世の中は、良くなるどころか悪くなる一方です。世界が始まって以来、これまでにないほど大勢のセラピスト〔療法士〕がいるのに、どうしてこのようなことが起こるのでしょうか？キリストの体である教会において、クリスチャン・カウンセラーやセラピストといったやからが掃いて捨てるほどいるのに、キリスト教界における問題は、減る代わりに増える一方です。何が間違っているのでしょうか？聖書だけが、私たちに答えを与えてくれます。イエスだけが、私たちに自由をもたらすことができになります。いかなる心理学論も、自由をもたらしてはくれません！

聖書の中で、「イエスの御名によって」という言葉は、少なくとも七回はできます。イエスご自身が、「私の名によって」という言葉を、四福音書の中で少なくとも十七回使っておられます。イエスの御名は、非常に意味深いものにちがいません。

なぜ彼の御名がこんなにも重要なのでしょうか？福音の召命を成就するための力は、イエス・キリストの御名と権威の内にあるのです。

交通整理をする警官と彼が代表している国家との関係が、分かりやすい例となることでしょう。その警官自身の力は、たかが知れています。自動車は彼の上を走り去り、一瞬にして彼の命を奪ってしまうことができます。しかし、彼の権威は尊重されます。なぜなら、彼の背後に国家権力があるからです。

イエスの弟子また証人として、私たち自身は何の力も持っていません。しかし、私たちはイエスの御名の内に権威を持っています。地獄の軍勢は、この権威を敬わなければなりません。なぜなら、それは天の力を伴うものだからです。イエスは、下記の約束の内にこの権威を分かりやすく示しておられます。

「そして彼らに言われた、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる』」（マルコ 16 : 15 - 18）。

ここでイエスは、サタンと悪魔たちよりも上の権威を私たちに授けられました。私たちが、「イエスの御名によって」サタンに命じる時、聖霊の力と天使たちが動き始めます。サタンによる悪の特性が、その人の人生において碎かれるために、サタンはイエスの力の下で縛り上げられなければなりません。イエスはこれを、次の聖句で説明しておられます：

「しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである。まただれでも、まず強い人を縛りあげなければ、どうして、その人の家に押し入って家財を奪い取ることができようか。縛っ

てから、はじめてその家を掠奪することができる」(マタイ 12:28-29)。

「強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。しかし、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである」(ルカ 11:21-22)。

ここでのこの類比において、「強い人」はサタンであり、「もっと強い者」は聖霊であります。邸宅は、サタンがその力を行使している人物です。欽定訳聖書には、彼の土地あるいは持ち物と書かれています。それはサタンの属性(あるいは要塞)です。聖書の中でキリストは、その人の人生においてまずサタンが縛られない限り、サタンの影響、属性、要塞は、取り除くまたは壊すことはできないと述べておられます。サタンが縛られると、彼の武器は無効となるのです。

サタンの武器とは何でしょう?彼は、失望、憂鬱、疑い、不安による発作、家庭騒動、精神的苦痛、欺瞞、自責の念、失望感、誘惑と罪などといった武器を用いて、私たちに打ちのめすことができます。サタンは、私たちが感情において縛り上げることができるのを知っています。良い例が恐怖です。彼は私たちに恐怖によって、麻痺させることができます。

サタンが私たちに、悪習慣や間違った考えや行動に巻き込むことができた時、彼は私たちが無力になるのを知っています。私たちが委任されているところの権威、すなわち「イエスのみ名によって」のみ、サタンは私たちの人生において縛り上げられ、彼の要塞は崩されるのです。

多くの人々は、自分たちが攻撃されているという観念が全くありません。そのため彼らは、安心を探し求めてあちらこちらをさまよって歩くのです。ある人々は心療内科へ行ったり、薬や催眠療法その他さまざまな「治療」を試したりしています。私たちは、自分たちがやみの世の支配と権威に対する生死をかけた戦いの中にいることを、認識することが必要不可欠です。「イエスのみ名によって」与えられている力を通してのみ、脱出する方法が得られるのです。

悪魔に対抗してイエスの御名を呼ぶ時、あなたは宣戦布告をしているのだということを確認してください。その戦いは、さらに激しさを増すことでしょう。しかし、私たちがあきらめなければ、天のみ使いたちが戦い続け、そして勝利することでしょう。これは手っ取り早い解決策ではありませんが、かといって複雑でもありません。これは、天の力の助けを呼び求めることです。「イエスのみ名による」力が、すべてを動かす鍵となるのです。

福音書の核心は、「イエスのみ名によって」用いることのできる力にあります。聖書の記録は、キリストに従った人々が力強いイエスの御名を用いた時に何が起こったかという例を、たくさん与えてくれています。

その名によって：

- ペテロは足が不自由な人に起きて歩くようにと語りました。
- パウロは説教し、悪霊を追い出しました。
- ペテロは人々に悔い改めてバプテスマを受けるようにと語りました。

● 多くの人々はキリストの弟子たちによって癒されました。

その名は、福音を説くにあたって非常に効果的だったので、大祭司たちは少なくとも二つの出来事において、弟子たちにその名で語らないように命じました。

私たちは「イエスのみ名によって」祈ったり、祈りを終えたりすることには何の問題も感じていません。しかし、悪魔に「イエスのみ名によって」出て行けと命じる時、急にしりごみしてしまいます。悪魔は、人々を恐怖の内に閉じ込めておくことに関して、とても賢くふるまっています。そうすれば人々が、「イエスのみ名によって」彼を支配しないことを知っているのです。彼に対してイエス・キリストの名が使われた時、彼は自分が応答しなければならないことを知っているのです。

いくつかの理由で、クリスチャンが悪魔を譴責することは非常に難しいものとなっています。ある人々はこれが霊の賜物の一つと考え、それゆえすべての人がこれをすべきではないと言います。これは間違った考え方です。権威を用いることは、霊の賜物ではありません。これは、イエスによってすべての信者に与えられた命令の一つであります。イエスは、「もしあなたが信じるなら」「わたしの名によって」あなたは悪魔に対して権威を得る、と言われました。

ある時一人の牧師が、とりなしの祈りが書かれた一枚の紙を私たちに手渡しました。それは、優れた文章でしたが、聖霊に悪霊を追い出して下さいと願っているくだりがありました。このような思想は、聖書的ではありません。聖書のどこにも、イエスがサタンに対する権威を私たちに与えた後、私たちがその権威を神に返すようにと書かれたところはありません。

悪霊を追い出すことは、祈ること以上のものであります。それは、「イエスのみ名による」権威を持つことです。またそれは、神の力がサタンの力よりも偉大であることを、私たちが心から信じていることの証明でもあります。サタンや悪魔たちとの、この目に見えない戦いにおいて、イエスは私たちが肉体的にも精神的にも勝利できないことを知っておられます。それゆえ、主は愛によって、悪のすべての力に対抗することができる武器を、私たちに与えて下さったのです。

世の人々は、「拳銃」のような武器に頼るかもしれませんが。たとえ弱者であっても、銃を持たせたら、大きな力をふるうことができます。実のところイエスは、私たちに敵の全勢力を超えた力を与えて下さいました。何という愛の神でありましょう！主は私たちに、肉体的あるいは精神的にサタンと対決することを期待してはおりません。私たちは、主の御名のうちにある権威を得ることによって戦うのです。

親愛なる皆さん、これは狂信ではありません。もしそうであるなら、イエスも狂信者であったといえましょう。イエスは、彼の証人に対してサタンがどんなに悪意をもって働くかをご存知でした。キリストは、神の民が彼ら自身の人生において勝利を得るだけでなく、同じ勝利を得るために他の人を助けることをも望んでおられます。「イエスのみ名による」権威の力には、二重の意味があるのです：

- A. イエスが荒野における誘惑を経験し、勝利されたのと同様に、個人的な試みや問題において勝利する。
- B. ペテロが宮の階段で足が不自由な人に「イエスのみ名によって」起きて歩くように命じた時と同様に、他の人に奉仕する。

これは、イエスが私たちに下さった何とすばらしい特権でしょうか。イエスが私たちに、主の名によって悪の全勢力に対して力を持つことができる」と語られた時、悪魔のかしらであるサタン自身に対してさえもそうなのです。

本書の最終章、「私たちの戦いの武器」において、この話題を続けようと思います。あなたは、あらゆる地獄の軍勢に対して用いるために神が与えて下さった武器の、実際的な使い方を学んでいきます。託された権威をサタンに対して実際に活用し、勝利を得ている人々の証を皆さんに紹介します。

私たちはお互いに対して戦っているのではなく、超自然的力との戦いの中にいることを常に覚えていきましょう。この戦いは、超自然的に戦われなければならないのです。「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」（エペソ 6：12）。

祈り：

天のお父様、あなたは私の試練、私の苦闘、そして私が受ける誘惑を知っておられます。私が、「イエスのみ名による」権威と力を信じ、理解することができるように助けて下さい。そして、御力を呼び求めることができるように助けて下さい。イエス様、この祈りを聞いて答えて下さることを感謝いたします。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

私たちの戦いの武器

「わたしたちの戦いの武器は、地上のものではなく、神の力であり、それによって反乱した要塞を私たちが征服するものである」（IIコリント 10：4）。アラム語のラムサ訳

なぜ、私たちの戦いの武器は地上のものでなく、また人間が考案したものでもないのでしょうか？「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」（エペソ 6：12）。

「わたしたちの戦いは、血肉に対する格闘ではなく一物理的敵対者とだけの戦いではなく、独裁者、権力、現在の暗黒の世界を支配している者〔悪霊の主〕、宇宙〔超自然〕における悪の靈力に対する戦いである」（エペソ 6：12—拡大訳）。

多くの人々は、自分たちがとてつもない靈的戦闘状態にあるという事実を受け入れたがりません。私たちにとって、人間同士の戦いの中にいると信じるほうが、よっぽどたやすいのです。私たちは、自分たちの生活の中に、悪霊が影響を及ぼすことができると考えたくないのです。

考えたくなくても、また受け入れようと受け入れまいと、私たちは暗黒の勢力、すなわちサタンや悪天使たちとの戦いの渦中にいます。彼らも、かつては美しく愛溢れる天使として、天の宮廷を歩きました。しかし、もはや彼らは美しい愛溢れる天使ではなく、醜く

意地悪い天使であり、心に一つの目的を持っています。それは破壊すること、つまり私たちとイエスとのつながりを壊し、結婚関係や家族関係、そして若者たちを潰すことなのです。これらの悪霊たちは、破壊と混乱をもたらそうと懸命になっています。

I ペテロ 5 : 8 には、次のように書かれています：「油断なく用心し、注意していなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」（ラムサ訳）（ギリシャ語において、「食いつくす」とは、「溺れさせる」という行為と等しく扱われています）。

私たちが関わっているこの霊的戦いは、今まで物理的に戦われてきたどの戦争よりも、はるかに激しく危険なものです。故に私たちは、神が意図する方法でこの戦いを戦うことを学ばなければなりません。こんなにも愛溢れる神は、目に見えない敵に対して無力な私たちを置き去りにはなさいません！この章で、神が与えられた武器のいくつかを探ってみましょう。

これらの武器は二つの目的のために与えられている。

A . 私たちの個人的生活における暗黒の勢力との戦いのため

B . たびたび暗黒の勢力との戦いの中にいる他の人に対して奉仕するため

皆さんに、今日から実践的に使える聖書の武器を与えることが、私たちの望みです。

それでは、これらの武器のいくつかを見てみましょう。

- ・ 神の武具
- ・ 剣一神のことば
- ・ サタンの力を叱責し、縛り上げる
- ・ 祈り
- ・ 個人的証
- ・ 神をほめたたえる
- ・ 賛美する（歌う）



神の武具—みことばを学ぶことを通してイエス・キリストを身に着ける

エペソ 6 : 11 には次のように書かれています：「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい（神の武具を身に付けなさい—新改訳）」。

私たちがどれほどサタンに抵抗したとしても、神の言葉を学ぶ時間を毎日持たなければ勝ち目はありません。最良の時間は朝方です。朝一番に、霊的な服を着ることが最善であります。神の言葉は、私たちの日常生活の手引書です。神の言葉の中にあるキリストの生涯を学ぶことにより、私たちの日常生活において、キリストを模倣することができるようになるのです。

私たちが心を神の言葉で満たす時、悪魔によって私たちの心に入

れられた悪意や誘惑は暴露されることでしょう。真理の言葉の光は、サタンによる偽りという暗黒を押し出します。

一つを除いて、神の武具はどれも防御のためであるという点は、注目に値します。その一つとは、みことばの剣です。それだけが攻撃用の武器であります。但しそれは、常に研ぎ澄まされていることが必須です。その武器を鋭く保つのは、私たち次第です。神の言葉を学び続け、それを私たちの生活の一部とすることによって、剣を鋭く保つことができます。これが神の武具を身に付ける方法の一つです。

剣を使う－神の言葉

聖書によると、サタンと悪霊たちに対して用いるための真理の剣として、神はみことばを私たちに与えられました。聖句は暗唱され、試みや悪魔によるいやがらせ、あるいはいじめの際、声に出して読まれるべきです。

聖書を声に出して読むことは、強力な武器となります。この効果的な武器は、あらゆる種類の状況において用いられ、すばらしい結果を生みました。イエス・キリストご自身も、荒野においてサタンに対して聖句を引用なさいました。

パニックによる発作、多重人格障害、うつ病、暗い過去の記憶、怒り、憎しみなどの問題を抱えた人々が、上述したように神の言葉を用いることで勝利を得てきました。ですから、あなたも勝利できます！

ある教会の長老で、ひどいうつ病の発作を抱えた人が、この武器を試してみることにしました。

うつ症状が次に来たとき、彼はこう言いました：「サタンよ、も

しもお前が直接的にあるいは間接的にこのうつ症状の背後にいて、私を苦しめているのなら、私はお前に向かって神の言葉を今から声に出して読もう。もうたくさんと思ったら、お前は出て行かなくてはならない」。そして、彼は聖書を声に出して読み始めました。数分の内に、彼はうつ症状から解放されたと言っていました。

私自身も、時折朝の早い時間に、罪悪感にさいなまされることがあります。子育てにおいてクリスチャンとしての指導が欠けていたことが理由なのですが、それは私が神に反抗して生きていた時代のことです。しばしば、この苦しみは耐えがたいものになります。これが起こると、私はベッドから飛び出して別の部屋に行き、聖書を手にとってサタンにこう告げます：「もしお前がこのあらゆる苦悩の背後にいるのなら、私はイエス・キリストのみ名と権威によって抵抗する。お前は自分の苦悩を持って出て行け。今から私は、お前に対し聖書を声に出して読むことによって、お前を苦しめよう。もうたくさんだ、と思ったら、その時お前は去らなければならない」。

そして私は、聖書を声に出して読み始めます。十五分から二十分読まなければならない時もありますし、一時間の時もあります。しかし、すべての場合において、私は苦悩から解放され、平安の内にベッドに戻ることができます。

ある青年が「パニックによる発作」という問題を抱え、私たちに電話をしてきました。パニックによる発作があまりにもひどく、家から外出すると考えただけで恐ろしい恐怖に襲われるということでした。私たちの指導を受けた後、彼は聖書を声に出して読み始めました。すると、パニックによる発作は徐々に少なくなり、ついには全く起こらなくなりました。

家庭内騒動が起こった際は、家族の一人が静かな場所を見つけて、サタンに家から出て行くように告げます。それから、神の言葉を声

に出して読むと、短時間で事が収まり始めます。

私たちは、あらゆる悪の勢力が神の言葉を憎んでいることを理解しなければなりません。みことばを用いることをためらってはいいません。キリストは、荒野においてサタンに話しかけられた時、みことばを用いることをためらわれませんでした。彼は、「聖書にこう書いてある」と言われました。家族全員がこのように行うことを学ぶべきです。それは、悪の勢力に対して家庭の扉を閉めることにおいて、非常に効果 があります。

暗黒の勢力を叱責し、縛り上げる

イエス・キリストの御名によってサタンを叱責するための権威についてのさらに詳しい情報は、「イエスのみ名によって」という章を参照して下さい。サタンは、イエスの御名を認知しなければなりません。キリストは、私たちの生活から、私たちの子供たちの生活から、そして私たちの教会からも彼の御名によってサタンに出て行くよう命じる権威を私たちに与えられました。

マタイ 12：29 によると、私たちが初めになすべき事は、サタンを縛り上げることです。この聖句によると、サタンの要塞あるいは人の日常生活における影響が崩される前に、サタン自身が縛り上げられなければなりません。

無論、これはイエスの御名によってなされねばなりません。サタンが縛り上げられた後、正しい選択をするために意志を働かせる自由が与えられます。ある人たちが、「サタンと悪霊たちをどうやって叱責するのですか？」と質問してきました。

マルコ 1：25 で、イエス・キリストは、「黙れ、この人から出て行け」と言われました。また、イエスはガダラの人の内にいた悪霊を、

「汚れた霊よ、この人から出てきなさい」と言って追い出されました。マルコ9：25で、キリストは、悪霊にとりつかれた少年に、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け」と言われました。

マルコ16：17で、イエスは、「彼らはわたしの名で悪霊を追い出す」と言われました。パウロは使徒行伝16：18で、「イエス・キリストの名によって命じる。その女から出て行け」と言いました。ですから、これらの聖句をまとめると、イエスは私たちに、「悪霊よ、ナザレのイエスのみ名によって出て行け」と言う権威を与えられたと言えるのです。

イエスは、その人がサタンや悪霊にとりつかれ、嫌がらせをされ、悩まされ、苦しめられていようとまいと、その権威を与えられたのです。疑いたくなるときには、「主よ、この問題に関してサタンが関わっているかどうか私には分かりません。でも、もしそうであるなら、マルコ16：17にあるように、サタンより強い権威を持ちたいのです」と言い、そして「サタンよ、もしお前がこれを行っているのなら、私はイエスの御名によってお前に対する権威を取り、私から出て行くように命じる」と言いなさい。

(注一この点において、警告の言葉を語る必要を私たちは感じています。振り子は決して途中で留まりません。いつも右か左に揺れています。人々がこのような戦いに関して学び始めると、ある人はサタンを叱責することを全くせず、またある人は悪いことが起こると一足つま先をぶついたり、車のドアに手をはさんだりといった人間の過ちや間違いなども一すべてサタンのせいにし、狂信者となります。)

これは悪魔によるものかもしれないと感じるどんな問題でも、決してそうと決めてかかってははいけません。神だけが、それが悪魔に

よるものかそうでないかをご存知です。決して悪魔と会話し続けてはいけません。心霊術にはまる危険があるからです。常に、聖書中のイエスの模範に従うべきです。

他の人々は、これが手っ取り早い解決法であり、それで十分だと信じたがります。救われるための歩みは不断のものであります。私たちには、破られるべき長年の習慣があります。私たちに必要なのは、反動ではなく行動の仕方を学ぶことであります。私たちは、この善と悪との霊的戦いが、この世の歴史の終わりに近づくにつれて激しくなっていく一方であるということに、気づかさなければなりません。これらの武器は、イエスがサタンと暗黒の軍勢にとどめを刺し、彼らを滅ぼすことによって永久に彼らを沈黙させるまで、用いられるべきものです。

祈り

祈りは私たちと天との伝達手段であります。これは、私たちがその日の力を受け取る方法です。これは、苦痛や悩みのときに、神が私たちに助けを与えるための扉を開く鍵です。多くの人々が、誘惑、悩み、重圧そして苦悩の際に助けを求めて、祈りの言葉をささやきました。

祈りは、私たちが、罪の泥沼に沈んでいっているかもしれない人々のためにとりなしをする手段です。神はこれらの祈りを聞かれ、必要な助けを送って下さいます。

下記の祈りは、あなた自身の状況や必要に適合できる祈りのサンプルです。これらの祈りは、今までに挙げられた他の多くの武器と合わせて用いることができます。

あなた自身のための祈り

天のお父様、今日私は、わが人生のために、私自身をあなたにささげます。そして、あなたの御心に自らを明け渡します。お父様、Iヨハネ1：9の約束にあるように、どうか私の罪や過ちを赦して下さい（もし告白していない特定の罪があるなら、ここでそれを告白して下さい）。

私は、暗黒の勢力が現実であることを悟りました。しかし、あなたがみことばの内に与えておられる戦いの武器を通して、すべての地獄の軍勢に対して勝利を得ることができることも悟りました。

今私は、（ここであなたが戦っている戦いについて述べて下さい）・・・で戦っています。父よ、この事において悪魔の手が関わっているのかどうか私には分かりません。しかし、彼がなした業において、マタイ12：29、マルコ16：17にあるように、あなたが悪魔と悪霊たちの上に権威を行使して下さい。これらの約束を感謝いたします。

サタンよ、もし_____というこの問題にお前の手が関わっているなら、全能の力強いナザレのイエスの御名によってお前に抵抗する。イエス・キリストの名によって、サタンよ、お前を縛り、私から立ち去るように命じる。お前も悪霊たちも全員出て行かなければならない。お前は私に対して何の権利もない。私はイエス様のものであり、彼の血によって覆われているのだ。今この瞬間において、私を痛めつけようとしているいかなる悪の力があっても、私との間にこの血が置かれることを主張する。

お父様、今、あなたが私のために戦う力強い天使たちを送って下さるようお願いいたします。また、聖霊を送って下さり、私がみことばを学ぶときに霊的洞察力を与え、私の心をあなたのみことばで満たして下さいようお願いいたします。日ごとあなたのみことば

を学ぶことを通して、イエスを表すことができるよう助けて下さい。

私を愛して下さい、サタンと悪天使たちから逃れる道を備えて下さったことを、心から感謝いたします。今、私はわが人生を御手にお委ねします。あなたが与えて下さった自由と、この祈りに答えて下さったことを感謝し、あなたをほめたたえます。イエスの御名によってお祈りします。アーメン

あなたがこの祈りを終えた後、続けてその時適していると思われる他の武器を用いることをお勧めします（聖書を声に出して読む、歌う、神をほめたたえるなど）。

他の人のための祈り

天のお父様、今日私は、わが人生のために、私自身をあなたにささげます。そしてあなたの御心に明け渡します。お父様、Iヨハネ1：9の約束にあるように、どうか私の罪や過ちを赦して下さいようお願いします。祈りにおいて他の人のためにとりなす特権を私に与えて下さったことについて、心からあなたをほめたたえます。

お父様、今日私は_____のためにあなたの御前に来ています。（彼／彼女）は気づいていませんが、霊的戦いのさなかにいます。今日、私は_____のためにとりなしたいと思います。聖書の中で、ホセアの妻、ゴメルにされたように_____の周りにいばらのまがきを設けて下さい。

このいばらのまがきが設けられることによって、サタンと悪霊たちが_____の人生に関わる道を持ってなくなるようにして下さい。

イエスの御名によって、サタンよ、私はお前を縛り付ける。それ

によって、お前の影響力ははびこることができない。そして私は、お前が_____の目からうろこを取り除くことを命じる。そうすれば、もっと良い道があることに気づくことができるだろう。

もし、_____の人生において、サタンが影響を及ぼして悪い道へと導くために用いている人々がいるなら、お父様、どうかあなたがいばらのまがきを設けて下さって、彼らがお互いに顔を合わせていられなくなるようにして下さい。

あなたの聖なる御霊が、_____の心に力強く働くようお願いいたします。永久に手遅れになる前に、_____をあなたの御前に引き寄せて下さい。

この祈りを聞き、答えて下さることを感謝します。イエスの御名によってお祈りします。アーメン

幼い子供のための祈り

天のお父様、今私は、イエスの尊い御名によってあなたのみもとに来ます。お父様、私の人生において告白していない罪がありましたら、どうぞお赦し下さい。Iヨハネ1：9にある約束を求めます。この祈りの答えを、妨げるものが何もないようにしたいのです。

お父様、私はこの愛する子のことであなたのみもとに来ています。私は、悪天使たちが、_____の人生に影響を及ぼしていると確信しています。マルコ16：17において、イエスは私に、サタンと悪天使らに対する権威を約束して下さいました。

今私は、悪の勢力が_____を苦しめている出来事の中で、その権威を要求する。さあサタンよ、そして悪霊たちよ、聞きなさい。イエス・キリストのためにこの子を要求する。私は、ナザレのイエス・キリストの御名によってお前たちに抵抗する。もしお前たちがこの

子に何かしているのであれば、イエスの御名によってこの子から手を引くように命じる。

もしもお前の反抗心、憎しみ、恨み、怒り、暴力などによって、 の人生に影響を及ぼしているなら、お前は出ていかななくてはならない。私は、この子をイエスの十字架の血の下に置く。お前は何の権利もない。だから、出て行きなさい！

お父様、あなたが聖霊と力強い天使たちの力によって、サタンを追い出すのを助けて下さるようお願いいたします。あなたの優しい御霊によって、この愛する子を取り囲んで下さるようお願いいたします。あなたの御手にこの子を委ねます。聖霊が にあなたの道を教えて下さいますように。

サタンが（彼／彼女）に対して備えている悪によって をつぶすことがないように、あなたが（彼／彼女）の心を天の事物で満たして下さい。

ああ天のお父様、今日私はこの愛する子のために切に願います。天の平安が、今（彼／彼女）の心に満ちあふれますように。この祈りを聞き、答えて下さることに感謝して、イエスの御名によってお祈りします。アーメン

私たちは、孫たちが私たちの家で過ごした時に、どのようにして彼らのためにこのような祈りをしてきたかという個人的な証を、何ページも書き連ねることができます。驚くべき事が何度もありました。私たちは、昼間、子供たちが学校やその他の場所にいる時、神が彼らの周りに保護のまがきを設けて下さるよう祈っています。

他の親たちが、生活上のある面 で抑制のきかない子供を連れて、あなたのところへ来るかもしれません。この子供のために、上記の

ような祈りを捧げることができます。あなたは、すぐ目の前で結果を見ることができるでしょう。イエスは、ご自身の御名をととも尊重なさいます！

親愛なる皆さん、あなたがこのような祈りを捧げるとき、何かが起こることを理解して下さい。このような祈りは、あなたの祈りに推進力を加えます。あなた自身のため、また他の人のため、そして子供のために祈った後、戦いはますます激しくなることでしょう。多くの場合、間違いなく、それはサタンが抵抗しているからなのです。

しかし、粘り強く武器を使い続けましょう。解放される時がやってきます。それが、神の御約束なのです！

個人的証

黙示録 12：11 において、聖書は次のように言っています：「兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼に打ち勝った。神の力が私たちの人生をどのように変えたかということ、他の人々と分かち合うのは、大変有益です。サタンは、イエスのための個人的な証を憎んでいます。私たちがイエスのために証する度に、私たちとイエスとの結びつきは強まり、信仰が増し加わります。個人的証によって、他の人々は大きく影響を受けます。それは、彼らも助けを得ることができるという希望を与えるのです。

しかし、これは何も私たちがかつて行っていた罪深い行為をすべて思い出し、他の人に洗いざらい話すという意味ではありません。神が何をして下さったか、どのように罪の淵から私たちを救って下さったかを分かち合うということです。

イエスが、悪霊にとりつかれていたガダラの人に、悪霊から解放された後「行って、わたしがあなたにした事を語りなさい」と言われたのは、とても興味深いことです。

その人はその通りに行き、イエス様がそこへ戻られた時、何千もの人々が彼の話を聴きにきました。それはすべて、一人の人の個人的証によるものだったのです。

イエス様があなたに何をして下さったかを、他の人に語って下さい。それがあなたに、そしてあなたが伝えた人に、どれほどのすばらしい事をもたらすかを見て、きっと驚くことでしょう。

神をほめたたえる（賛美する）

賛美は、敵に対して用いることのできる最も強力な武器の一つです。神への賛美を注ぎ出すことは、大きな祝福であります。筆者自身も、この武器を用いることがどんなに良いかを証明できます。

ある日、私は非常に煩わされていました。サタンが必死になって私を失望させようとしていることが、切実に感じられました。私は、美しいコロンビア川の渓谷をドライブしているところでした。ラジオで流れていた賛美歌の歌詞に、すべてのことについて神を賛美せよという勧めがあったので、私はそうすることにしました。

私は、すばらしい妻、神が与えて下さった家族のことについて、神を賛美し始めました。私はまた、神が与えて下さった美しい隠れ家、屋敷の中を流れる美しい小川や、木々に囲まれたすばらしい家について感謝しました。隣人に恵まれていることについても神をほめたたえました。見事な滝、壮大な山々というすばらしい景色を私たちに見せて下さっていることで神を賛美しました。また私は、良き友が与えられていることについても神に感謝しました。人々を助

ける小さな役目を担う機会を与えられていることについて、神をほめたたえました。

賛美を捧げられるように、聖霊が私の心に様々な事を思い起こさせ続けて下さったので、私は神をほめたたえ続けました。そして、何時間ものドライブがあっという間に過ぎました。目的地に着いた時には、重荷が消え去り、心の雲がどんなに吹き払われたか、信じられないほどでした。これは何年も前のことですが、その経験がどんなふうにも、私の人生の中で最も平和に満ちた日のひとつとして与えられたかについて、いまだに妻に話して聞かせています。

詩篇におけるダビデの言葉は、神への賛美のよい模範として描かれています。詩篇を用いて神を讃えるならば、あらゆる状況において、神への賛美が暗黒の雲を吹き飛ばすということが分かるでしょう。神が私たちに与えて下さったすばらしい賛美という武器を通して、神は不思議な事をなさるのです。

讚美歌を歌う

健全なクリスチャン音楽の曲を歌うことは、敵に対する別の効果的な武器であります。イエスについてのメッセージを持つ歌は、暗黒の勢力に対する有力な攻撃となります。今日の世の中で、サタンが作り出している歌を聴けば、彼が健全なクリスチャン音楽を憎んでいることは明らかです。

詩篇 59 : 16 には、次のように書いてあります：「わたしはあなたのみ力をうたい、朝には声をあげてみいつくしみを歌います。あなたはわたしの悩みの日にわが高きやぐらとなり、わたしの避け所となられたからです」。

十二年ほど前、霊の戦いについて、またこれらの武器をどのよう

に用いるかを学び始めた最初の頃、これがどんなに効果 あるものかを見出す出来事が起こりました。ある晩、私たちの一人が、暗黒の勢力によって非常に苦しめられました。悪魔が寝室の中に、私たちのすぐそばにいるのが感じられました。

私たちはベッドの上に座り、イエスの御名によってこれらの悪の勢力を追い出しました。そして、「血の力」という歌を歌い始めました。

夜中の一時に、ベッドに座って歌っている私たちの姿が想像できるでしょうか？まもなく、すばらしい平安が私たちの寝室にやってきました。もはや悪魔の存在を感じることはありませんでした。その晩、それ以上苦しめられることもなかったのです。

皆さん方の多くは、前回の集会でのコレットの証を覚えておられることでしょう。悪魔に苦しめられるときに、彼女がどのように歌を歌うかをいつも話しています。彼女の戦いの歌は「主我を愛す」です。

彼女がこの歌を歌っているのを聞くと、私は彼女が何かと戦っているのが分かるので、彼女のためにとりなしの祈りを始めます。それが、また効果 的なのです！

もしあなたが何者かに煩わされていると感じるなら、あるいは濃い暗黒があなたを取り囲むように感じるなら、健全なクリスチャンの歌を歌い始めると良いです。すぐにあなたは、暗黒が消え去り、天の陽射しが魂に満ちあふれるのに驚くことでしょう。

下記の事柄はすべて、サタンと悪霊たちに対する極めて強力な武器となります。

- ・ 神の武具を身に付けるー（みことばを学ぶ）
- ・ 剣を用いるー敵に対抗する神の言葉
- ・ 祈り
- ・ 暗黒の勢力を叱責する（イエスの御名において）
- ・ 個人的な証ー神が自分に何をして下さったかを伝える
- ・ 神を賛美する
- ・ 健全なクリスチャンの歌を歌う

あなたはもしかしたら、うつ、怒りや憎しみの感情、家庭内の騒動、パニック発作、ストレスによる過重な負担、罪意識、強迫観念、人生における罪の砦が築かれていることなどに直面しているかもしれません。どんな状況であろうと、イエスと彼のご計画はあなたの必要をすべて満たして下さい。神が下さった聖書的な武器を用いることによって、心理療法士にかかる必要はなくなります。むしろ、真の証人ーイエスという武器に頼って下さい。

神の言葉の中に書かれているように、これらの武器は、思考と行動の問題のために私たちが必要としている唯一の治療薬です。私たちには、精神薬は必要ありません。また、いわゆる「クリスチャン・カウンセラー」による非常に多くの有害な理論も、私たちには必要ありません。本人自身が救い主となっていくという心理学が、彼らの指針には織り込まれているのです。

私たちに必要なのは、イエス・キリストであります！イエスが私たちの心を造られ、彼のみが私たちの思考と行動の問題を解決することのできるお方なのです。私たちの思考と行動は、特に、サタンが攻撃している部分なのですから。サタンの攻撃に対抗するために、

サタンの心理学の理論を用いることが有効だと思いませんか？

私たちは、心理学的な考え方があまりにも浸透した世界に生きているため、何らかのプログラムがあるべきで、そのプログラムのあらゆるステップをこなせば助かるだろうと考えます。この考えは、心理学から来ていて、ほとんどのキリスト教界にも持ち込まれています。

私たちは、二十年以上も「カウンセリング」に通い続け、それによって助けを得ていると信じている人々を知っています。それでもなお、彼らは様々なプログラムやセラピーを渡り歩き、解決法を探し続けています。このような状況は悲しむべきことです。犠牲者が、自由を得るための唯一有効な力の源、すなわち「イエスのみ名によって！」惜しみなく与えられている力を拒む時、状況はさらに困難なものとなります。

今こそ、唯一にして真の助け手であられるイエスに立ち返り、彼が与えて下さった武器を取る時であります。また今こそ、みことばを読み、私たちの日常生活の中に聖書の真理を取り入れ始める時であります。イエスの福音は、良き知らせです。なぜならそれは、生命をもたらし、平和をもたらし、喜びをもたらし、そして何より勝利をもたらすからです！

イエスの内にある勝利！

イエスは捕われ人を解き放つために来られた！

アーメン！

祈りとクリスチャン兵士

パウロはエペソ6章において、完璧にクリスチャン兵士の姿を描いています。ここでも、クリスチャン戦士は常に戦いの中にいるということが分かります。時々ではなく、いつもです。

勝利の時もあれば、敗北の時もあり、順境も逆境もあります。しかしあらゆる状況において、彼は戦い続けなければなりません。だから、彼は絶えず祈らなければならないのです。彼は決して、祈りの完全防備なしにはいられません。もしも、クリスチャン兵士が勝利を得るつもりなら、さらに祈らなければならないのです。神からの指令がエペソ6:18に与えられています。「絶えず祈る。ここに、祈りの差し迫った必要性が明確に記されています。これこそ敵に打ち勝つための唯一の道なのです。

改定訳聖書には、次のように書かれています：「祈と願いと共に、どんな時でも御霊によって祈り、・・・すべての聖徒のために祈り続けなさい。また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい。なぜなら、わたしは鎖につながれている大使なのであるから、語るべき時に大胆に語れるよう祈ってほしい」。

クリスチャン生活は戦いであり、激しい争闘であること、そしてそれは、イエスが来られるまで決して止むことがないということが、何度も繰り返し語られるべきです。まどろむことなく、人の魂を畏

にかけ、騙し、破壊することを常に探し求めている敵、超自然的で目に見えない相手との戦いであります。

聖書は、この戦いを素敵なピクニックやパーティーのようには描いていません。かえって次のように言っています。この敵に対して「身を慎み、目をさましていなさい」。なぜなら、「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」（Ⅰペテロ5：8）。これは、サクラソウやバラの香りがたちこめる小道ではありません。始めから終わりまで、決死の戦いなのです！人がイエスの御名を口に始めた時から、さらにその戦いは激しくなります！クリスチャン兵士は、この冷酷な敵に対して用いるべき剣を用意しておかなくてはなりません。

クリスチャン生活は、霊的戦いの特性という点において、非常に誤解されています。多くのクリスチャンは、この意地悪な敵に対する戦いに勝利するために何をすべきかということについて、まるで無知なように思われます。絶え間なく用心深い祈りをしない限り、この敵に完全に打破されるということに気づいていないようです。

戦士となることの属性は、簡単には理解されません。その原則、自己否定、困難に耐えること—勝利に対する決意—これらがクリスチャン戦士の生活においてしばしば欠けています。それでもなお、すべての道で戦いは続き、油断することなく祈ることなしには、勝利は決してありえないのです。

クリスチャン戦士は、平和の時も争闘の時も、祈って祈って祈らなければなりません。一瞬たりとも、祈りの機会を疎かにしてはなりません。クリスチャン兵士は、戦いにおいてと同じく、祈りにおいても真剣でなければなりません。彼の勝利は、彼の戦い方よりも、祈りによるのです。

祈りにおける熱心で誠実な嘆願が、神の武具に付け加えられるべ

きです。これは勝利の代償であります。クリスチャン戦士は、この戦いのすべての活動において、特に祈りにおいて常に目を覚まし、辛抱強くあるべきです。

クリスチャンの武具は、祈りなしには何の役にも立ちません。これはいわば連結する〔鎖の〕環、またはのりのようなものであり、武具を一つにまとめ、効果的なものにします。ですから祈りは、勝利するために極めて重要であり、不可欠なのです。祈りは、戦士の生活において広く行なわれるべきです。すべての呼吸が嘆願となり、すべての吐息が訴えとなるべきです。クリスチャン兵士が常に戦っていなければならないというのが、もし真実であるなら、絶えず祈っていることが必要です。不注意で、やる気のない、時々祈りでは、決して勝利を得ることはできません。マタイ 26:41 には、「誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい」とあります。

用心深いことと油断のないことは、祈りの相棒また護衛兵であります。コロサイ人への手紙の中で、パウロは次のように書いています：「目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい」（コロサイ 4：2）。クリスチャン兵士は、この二重の教訓を徹底的に学ばなければなりません。彼は勝利者となるために、まどろむことなく油断なく祈り続ける祈りの人とならなければならないのです。これは、目に見えない軍隊との戦いなのですから、天からの超自然的力によって戦わなければなりません。天からのこれらの力は、求める祈りなしには得られません。目標は、サタンへの支配を打ち破り、その場所に「義と、平和と、聖霊における喜び」（ローマ 14：17）である神の国を建設することです。

祈りがなければ、他のどんなものを持っていたとしても、クリスチャン兵士の生活は弱く無力なものになってしまうことでしょう。祈りがなければ、彼はたやすく霊的な敵の餌食になってしまいます。もし祈りが、彼の生活の中で重要な位置を占めていないなら、彼

の経験も影響力も力のないものになってしまうでしょう。

祈りの力によって強められ、祈りの兵士となっていなければ、十字架の兵士はいったいどのようにして勝利の夢と希望を抱くことができるでしょうか？ 祈らない人は、決して兵士となることはできませんし、大いなる戦士であるイエス・キリストによって用いられることができません。パウロは、聖書の中で最も勇敢な戦士のうちの一人です。パウロは祈りの人のうちの一人です。彼はすべての書簡を通して、祈りについて語っています。彼にとって、祈りは習慣であり、人生のうちで大きな部分を占めていました。彼は、彼の目がまだ見えなかった間に、キリストと共に、祈りをもって働きを始めました。「見よ、彼は祈っている」（使徒行伝9：11）。祈りによって天の父とつながることなくして、彼は決してあれほどの戦士とはなり得なかったことでしょう。

パウロは、戦いのために日ごとに力を必要としていました。そして彼は、祈りによって神とつながることでそれを得たのでした。敵と直面し、打ち勝たなければなりません。キリストのために、新しい陣地を勝ち取らなければなりません。まさしく使徒パウロのように、クリスチャン兵士は祈って祈って祈らなければなりません。そして忍耐強く祈ることで、地獄の支配者を震え上がらせることができるのです。そしてその時、クリスチャン兵士は勝利者となり、他の人が勝利を得るために、助けの手を差し伸べることができるようになるのです！

更なる学びのための聖句

- ・ **サムエル記上 16 : 23**—音楽が演奏されると立ち去った、サウルを苦しめ悩ましていた霊
- ・ **歴代志上 21 : 1**—ダビデがイスラエルを数えるように仕向けたサタン
- ・ **ヨブ記 1 章と 2 章**—ヨブを苦しめたサタン
- ・ **イザヤ 14 : 12 ~ 15**—ルシファー（サタン）のプライド
- ・ **マタイ 4 : 1 ~ 11**—荒野においてイエスを試みたサタン
- ・ **マタイ 6 : 13**—我らを悪より救い出したまえ、という主の祈り
- ・ **マタイ 8 : 16**—病人を癒し、悪霊を追い出されたイエス
- ・ **マタイ 9 : 32 ~ 33**—口がきけなくなる悪霊にとりつかれた人を癒されたイエス
- ・ **マタイ 10 : 5 ~ 8**—十二弟子に対する福音の召命
- ・ **マタイ 12 : 22 ~ 32**—悪霊につかれた目も見えず、口もきけない人（新改訳）—サタンの力によって悪霊を追い出したと訴えられたイエス→赦されざる罪
- ・ **マタイ 12 : 31 ~ 32**—悪霊を追い出すことに関連した中での赦されざる罪
- ・ **マタイ 13 : 38 ~ 39**—悪魔によってまかれた毒麦

- ・ **マタイ 12 : 43 ~ 45**—汚れた霊が追い出された後、戻って来た時に起こる事
- ・ **マタイ 17 : 14 ~ 18**—てんかんの発作を引き起こす悪霊を追い出されるイエス
- ・ **マルコ 1 : 21 ~ 27**—汚れた霊を追い出されるイエス
- ・ **マルコ 3 : 10 ~ 11**—神の子を認める悪霊たち
- ・ **マルコ 3 : 14 ~ 15**—弟子たちに対する福音の召命
- ・ **マルコ 5 : 1 ~ 20**—悪霊にとりつかれたゲラサの人
- ・ **マルコ 6 : 12 ~ 13**—説教し、癒し、悪霊を追い出すために出て行った十二弟子
- ・ **マルコ 7 : 25 ~ 30**—悪霊にとりつかれた娘をもつ母親
- ・ **マルコ 8 : 32 ~ 33**—ペテロを通して語るサタンを叱責なさるイエス
- ・ **マルコ 9 : 17 ~ 27**—言うことも聞くこともさせない霊にとりつかれた少年を癒すイエス
- ・ **マルコ 9 : 38 ~ 40**—悪魔を追い出している人についてイエスに尋ねるヨハネ
- ・ **マルコ 16 : 15 ~ 20**—信じるすべての者を含むまでに広げられた福音の召命
- ・ **ルカ 4 : 1 ~ 3**—荒野においてイエスを試みるサタン
- ・ **ルカ 4 : 18 ~ 19**—召命を述べられたイエス

- ・ **ルカ 4 : 33 ~ 36**—会堂における悪霊にとりつかれた人
- ・ **ルカ 7 : 21**—病人を癒し、悪霊を追い出されるイエス
- ・ **ルカ 10 : 17 ~ 19**—悪霊たちを従わせて喜ぶ七十二人
- ・ **ルカ 13 : 10 ~ 13**—十八年間も腰の曲がった女から悪霊を追い出されるイエス
- ・ **ルカ 22 : 31 ~ 32**—シモンを麦のようにふるいにかけることを願うサタン
- ・ **ヨハネ 8 : 44**—悪魔の性質
- ・ **ヨハネ 13 : 2 , 27**—ユダの心に思いを入れ、それから彼の中に入ったサタン
- ・ **使徒行伝 5 : 1 ~ 3**—聖霊を欺くに至った自己中心の思いをアナニヤの中に入れたサタン
- ・ **使徒行伝 8 : 5 ~ 8**—説教し、病人を癒し、汚れた霊を追い出すピリポ
- ・ **使徒行伝 19 : 13 ~ 16**—悪霊を追い出そうとするが、裸にされたスケアの息子たち
- ・ **使徒行伝 16 : 16 ~ 18**—自分を悩ましていた女奴隷から占いの悪霊を追い出すパウロ
- ・ **エペソ 6 : 10 ~ 18**—私たちは血肉に対して戦っているのではないから、勝利のために神の武具を着けなくてはならない。
- ・ **1ペテロ 5 : 6 ~ 8**—悪魔がほえたけるししのよう、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。

- ・ **Ⅱペテロ 2 : 4**—悪天使たちはさばきの時まで留められている。
- ・ **ヤコブ 4 : 7 ~ 8**—悪魔に立ち向かいなさい（抵抗しなさい）。
そうすれば彼はあなたがたから逃げ去るであろう。
- ・ **Ⅰヨハネ 3 : 8**—罪を犯す者は悪魔から出た者—イエスは悪魔のわざを滅ぼすために来られた。
- ・ **黙示録 12 章**—キリストとサタンの天における戦い
- ・ **Ⅱコリント 11 : 13 ~ 15**—光の天使に擬装するサタン

付 録

戦いは現実のもの！ エレン・G・ホワイトのペンから

「十二弟子を送り出すにあたって、キリストは一人として単独では送られなかった。彼らの使命の証明として、サタンの使いを追い出し、病人をいやすための力を授けられ、彼らは二人組みで出て行かなければならなかった」(RH1897年3月23日)。

「今日、サタンは人々の心を占領している。神の大義における働きの中で、私は何度も何度も、取り付かれた人たちに会い、主の御名において悪霊を叱責したことがある」(2 SM353 ページ)。

「人間が悪霊につかれるということは、新約聖書の中にはっきりと述べられている。これに悩まされた人々は、ただ単に普通の原因で起きる病気に苦しんでいたのではなかった。キリストは、・・・そこに悪霊が実際に存在し働いていることを認めておられた」(大争闘下 255 ページ)。

目に見えない戦い

「我々の目が開かれて、各自、天使たちとサタンの連合軍との戦闘を見ることができたら、我々の魂は驚愕することだろう。聖天使たちは、人々の救いのために猛烈に働いている。なぜなら魂の破壊

者が、無限の値で支払われた贖いを無効にしようと努めているからである。我々の靈的視野が開かれたなら、生きている限り、決して記憶からぬぐい去られないほどの事柄を見るであろう。・・・崖っぷちに立っているような状態の、誘惑を受けている者を助けるために、天使たちが迅速に飛び交っているのを見るであろう。これらの誘惑された者たちは、自分の力で困難を切り抜け、彼らを脅かしている破滅を避けることができない。けれども、神の天使らが悪天使どもを押し返し、誘惑された者たちの足を堅固な土台の上に据えるため、危険な場所から彼らを導き出している。我々は、二つの軍勢の間で交わされている戦いを、地上で行われている戦争と同様に現実のものとして見るべきである」(ST1894年10月10日)。

人類のあらゆる活動に関与する悪の軍勢

「彼〔サタン〕は、家の中のすべてのところ、われわれの都市のすべての通り、教会の中、議会の中、裁判所の中などに入り込み、人を惑わし、欺き、だまし、至るところで、老若男女を問わずその心と体を破滅させ、家庭を破壊し、憎しみや競争、争闘や暴動や殺人の種をまき散らす。そして、キリスト教界一般は、こうしたことを、あたかも神が定められたもので、当然存在するものであるかのようになっているのである」(大争闘下 247 ページ)。

全人類を憎むサタン

「我々の敵は強力であり、彼は神のかたちに創られたすべての人間を憎んでいるだけでなく、最も苦々しい敵意をもって、神とそのひとり子イエス・キリストを憎んでいるのである」(FE299 ページ)。

サタンとの戦いは極めて現実のもの

「わたしたちは戦いのまねをしているのではない。永遠の結果が決まる戦いをしているのである。ぶつからねばならない、目に見えぬ敵がいる。悪天使は全人類を支配しようと努力している」（ミニストーリー 99 ページ）。

「サタンと悪天使たちは、この虜を放したくないので、聖天使たちと激しく戦います」（青年への使命 49 ページ）。

「彼〔イエス〕は、悪魔の勢力がすべての魂の中で、支配権を得ようと懸命に戦っていることをご存知である。しかしイエスは、サタンの力を砕き、囚われ人を自由の身とするために来られた」（MLT300 ページ）。

時の終わりが近づくとますます成功を収めるサタン

「聖書に直接的な多数の証拠があるにもかかわらず、悪魔と悪天使たちの存在と働きを否定する人々ほど、悪霊の力に動かされる大きな危険の中にある人たちはいない。…このために、サタンは、人々を欺き滅ぼすために全力で働く世の終末が近づくにつれて、サタンは存在しないという考えを至る所に広めるのである。自分と自分のやりかたとを隠すのが、サタンの手である」（大争闘下 257, 258 ページ）。

誰でも神かサタンのどちらかの支配を受ける

「神の霊のみちびきの下にない男女や子供は、サタンの魔法の影響下であって、しかも自分のことばや行為によって他の者まで真理

の道からひきはなします」(青年への使命 276 ページ)。

悪魔の働きに対する無知は無防備

「神がご自分の子供たちに、恵みと保護の約束をお与えになったということは、当面すべき強力な悪の勢力——無数の、断固たる、疲れを知らぬ勢力であって、その悪意と力について無知であったり無関心でいては、だれひとり安全ではありえない——があるからである」(大争闘下 253, 254 ページ)。

「われわれが彼らの策略に無知であるかぎり、彼らは、われわれには想像もつかないほど優位にある」(大争闘下 257, 258 ページ)。

すべての人の弱点を研究するサタン

「サタンは、あなたが最も油断している時にあなたのそばにやってくる、あなたの武具の弱点を探ろうと見張っている。サタンはそこに自分の矢を打ち込み、あなたを罪に売り渡すことによってあなたの魂を傷つけることができる。自分の暗示に対して開かれている心に、サタンは入り込むことができる。そして長年の経験によって、最も有利に事を運ぶための誘惑術を習得している」(ST1884 年 5 月 8 日)。

しばしば気付かれることのない悪の軍勢

「キリストがペテロに、彼のすぐ前にある試練と苦しみの時について示し、ペテロがそれに答えて、『主よ、とんでもないことです』と言ったとき、救い主は、『サタンよ、引き下がれ』と命令なされた。

サタンはペテロに誘惑者の役を演じさせ、彼を通して語っていた。ペテロは、サタンがその場にいるとは思ってもよらなかった。しかし、キリストは欺瞞者がその場にいるのを見破ることができ、ペテロを叱るとき、彼は本当の敵に語られた」(スタディ・バイブル新 69 ページ [Letter 244. 1907 年])。

自分自身の力でサタンの攻撃を防ぐことはできない

「もしわれわれが、サタン以上の贖い主の力のうちに、かくれがと救いを得ていないならば、サタンとその軍勢の力と悪意とに恐怖を抱くのは当然であろう。われわれは、錠をかけて家の戸締りをよくし、生命と財産を悪人の手から守ろうと気をつける。しかしわれわれは、常にわれわれに近づこうとしている悪天使のことは、ほとんど考えない。われわれはその攻撃に対して、自分では防御する方法がないのである」(大争闘下 258, 259 ページ)。

我々が知っていて神の戒めを無視するとき

「今日、かのカペナウムの狂人と同じように、悪霊の支配下にある者がたくさんいる。自らすすんで神の律法から離れるものはみなサタンの支配下に自分を置くのである。多くの者は、好きなときにそれをやめることができると思って悪をもてあそぶが、だんだんつり込まれてついに自分よりも強い意志に支配されている自分に気づくようになる。その人はその不思議な力から脱することができない。かくれた罪や強い情欲が、カペナウムの狂人のように、全く無力な虜として、その人をつかんでしまうのである」(ミニストリー 63 ページ)。

改心していない子供たちが恰好の餌食

「イエス様の心を洗う力を体験したことのない子どもたちは、敵であるサタンの餌食にされても仕方なく、悪の天使たちも簡単に近づきやすい状態です。・・・両親たちの忠実で疲れを知らない努力と祈りの結果、子どもたちに与えられた恵みと祝福は、悪天使たちの力を取り崩して、聖別された感化を子どもたちに与えます。こうして闇の力は追い返されます」（次世代につなぐ信仰 104 ページ）。

各々の悪天使に特定の任務を与える

「サタンは、彼の天使たち各自に、果たすべき役割を与える。彼は、彼らすべての者に、悪賢く、巧妙、狡猾であるように命じる」（初代文集 180 ページ）。

不親切

「キリストの僕であると公言するある者たちは、あまりにも長い間、不親切の悪霊を抱いてきたために、いかがわしいものを愛し、人を不快にしていられさせるような言葉を好んで語るように思われる」（SL16 ページ）。

不節制

「不節制の悪霊は非常に強力であり、容易には克服されない」（Temperance176 ページ）。

「人を酔わせる酒類にふける人は、悪霊の完全な支配下にある。

その悪魔が、人から神の道徳のみかたちをぬぐい去り、破壊するために、この刺激物を発明したのである」(Temperance32 ページ)。

ニコチン

「信心深さを公言する人々が、自分たちの体をサタンの祭壇に捧げ、サタンの王座に向かって、タバコの香煙をもくもくと上げています。このような言い方は厳しすぎるであろうか。間違いなく、何らかの神に供え物が捧げられているのである。神は純潔かつ神聖で、本質的に汚れているものは何もお受けにならないお方なので、この高価で不潔かつ不浄な犠牲は拒絶なさらねばならない。従って我々は、ここで崇敬を求めているのはサタンであると結論付けるのである」(SL31 ページ)。

嫉妬

「王〔サウル〕の心にしつとの鬼〔悪霊〕がはいった。彼は、イスラエルの女たちが、彼よりもダビデをほめそやしたのを怒った」(あけぼの下 325 ページ)。

自分の捕虜を保持するために働くサタン

「暗黒の悪霊たちはかつて自分たちの支配下にあった魂を求めて戦う」(希望上 324 ページ)。

「サタンは、天の使いの力によって撃退されないかぎり、一步も退却しようとはしない」(大争闘下 314 ページ)。

神は決して助けを求める叫びを無視されない

「神はわたしたちが承諾しなければ、わたしたちの精神を支配なさらない。各人は自分を支配する力を選ぶのに自由である。キリストに救われることができないほど低く墮落した人はない。・・・困っている人から出る叫びは、たとえ言葉に出なくても聞かれるのである」(ミニストリー 63 ページ)。

教会に何が起こったか？

「教会は、迫害の火の手があがっていた時のような、世とは分離した特選の民ではなくなった。黄金は、なんとその光を失ったことだろう。精金は、なんと変化したことだろう。もし教会が、常にその独特の神聖な性格を保っていたならば、弟子たちに与えられた聖霊の力は、なお教会と共にあることを、わたしは見た。病人はいやされ、悪鬼は譴責されて追い出され、そして教会は大いなる力を持ち、教会の敵にとっては恐るべき存在となったであろう」(初代文集 375 ページ)。

我々を通して御声が聞かれることが神のご計画

「悪霊に取り付かれた魂が、我々の前に呈示されるであろう。彼らを破滅から救うために、我々は、純粋な信仰に混ぜられた熱烈な祈りの精神を養わなければならない。そしてこれが、我々の信仰を確かなものにしてくれるであろう。病人や不幸に見舞われた人、また悪霊につかれた者たちが我々を通して御声を聞くようになることを、神は計画しておられる」(Spaulding-Magan Collection 89 ページ)。

私たちの働き

私たちの目的は、夫、妻、両親、青年たちの生活のどの部分においてサタンが働いているのか、ということに焦点をあてることです。サタンは、彼らを罪の奴隷にし、福音の感化を及ぼさないようにし、霊的な目覚め（啓発）を妨げ、失望させ、うつ状態にし、道徳的な敗北者に行っているのです。何よりも、サタンと暗黒の勢力に対するキリストによる大勝利を教え、伝えることが私たちの働きの究極的な目的です。信者の勝利は、キリストとの結合を通して与えられ、保たれるのです。すべての家庭において、職場において、特にサタンの偽りと攻撃が激しく、種々の罪に襲われるクリスチャンの私生活において、イエス・キリストはなお、主であり、救い主であるということを宣言することが、私たちの働きなのです。

アル&コレット・マーティン

Anchor Ministries International

Al & Collette Martin

P.O.Box 39

Days Creek, Or 97429

Tel: 1-(541)825-3407

Fax: 1-(541) 825-3260

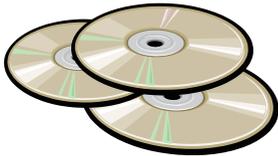
WWW.AnchorMin.org

[e-mail:anchor@pioneer-net.com](mailto:anchor@pioneer-net.com)

マーティン夫妻のセミナー収録集



“心の中の戦いに勝利する”



アル&コレット・マーティン
2005 年秋セミナー収録集
CD (30 枚) 6,000 円

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー
〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471
TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881
contact@srministry.com www.srministry.com

もっと詳しく知りたい方のために...



“ 厳粛な訴え ”

E. G. ホワイト
A 5 版 80 頁 500 円

母親に対する訴え、感傷主義〔センチメンタリズム〕について、女性の憤ましさ、破られた律法、結婚関係など語られにくい事柄をあえて E.G. ホワイトは取り上げて厳粛に訴えている。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー
〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471
TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881
contact@srministry.com www.srministry.com